

美しい村

原村2015年村勢要覧

The Beautiful Village of HARAMURA
HandBook 2015



美しい村を

原村の将来像として、「人も地域も輝く 緑豊かな原村」を提唱し



- ・人と自然を大切にしたい住み良い村づくり
- ・人と文化を育む村づくり
- ・健康としあわせを誇れる福祉の村づくり
- ・環境と共生した活力ある村づくりに取り組んでいます。

昨年10月に行われた村民アンケートによりますと、「あなたは原村に住み続けたいと思いますか」との問いに、73%の方が住み続けたいと回答されております。その理由として、「自然環境や景観がよい」、「自然災害のリスクが低い」、「生活環境が良い」などと評価されています。

原村は「日本で最も美しい村」連合へ加盟しました。村民の方々より加盟により「村の自然、景観、環境が守れる」、「村づくりの目標になる」などの意見を頂きました。

豊かな自然に囲まれた景観や環境は、私たちの暮らしにとって、先人たちより受け継いだ貴重な財産です。これからも「人も地域も輝く 緑豊かな原村」を目指して官民が一体となり、美しい村の特色を認識し、その特性を活かした村づくりに取り組んでまいります。

原村長 五味 武雄

For a Beautiful Village

I declare "A Rich-in-Green Village Where People and Community Shine" as Haramura's future image and would like to achieve this goal by:

- * Planning for a cozy village that respects its people and the natural environment
- * Planning for a village that nurtures people and culture
- * Planning for a village that offers social services with high level results in health and satisfaction
- * Planning for a vibrant village that coexists with its environment

According to a village poll taken in October last year, 73% have answered, "Yes," to the question, "Would you like to continue living in Haramura?"

People replied, "The natural environment and/or scenery is nice," "The risk of experiencing natural disasters is low," and "It is a good environment to live in." This shows how positive this village is being viewed.

Haramura has also received acknowledgement as a beautiful village from outside of itself. The most significant indicator of this is its recent acceptance among "The Most Beautiful Villages in Japan."

Upon joining this union, we have received opinions from villagers, such as, "This would enable us to better protect the village's wildlife, scenery, and environment," and, "It would be a great incentive for village planning."

The beautiful scenery and environment surrounded by an abundant wildlife are precious assets we have inherited from our ancestors.

The administrative and private sectors shall unite as one to continue striving for "A Rich-in-Green Haramura Where People and Community Shine" by seeking out the aspects of a beautiful village, together making use of these aspects and indulging in the art of village planning.

Takeo Gomi
Mayor of Haramura

02 【特集1】 美しい風景

空ソラ コラム／若宮崇令「宇宙と原村」

山ヤマ コラム／三浦豪太「八ヶ岳の思い出」

原ハラ コラム／藤井智之「命と向き合う」

村ムラ コラム／会田進「縄文の里」

16 【特集2】 美しい時間 Beautiful Time

18 【特集3】 美しい人

コラム／宇宙飛行士 山崎直子

むらびとスポットライト

原村の輝く宝石発掘マップ

ふるさとの想い 漫画家 伊藤理佐

27 【要覧】 人も地域も輝く 緑豊かな原村

人と自然を大切にしたい住みよい村づくり

健康と幸せを誇れる福祉村づくり

人と文化を育む村づくり

環境と共生した活力のある村づくり

美しい風景と村民の声を活かす村づくり

特集1

美しい風景

美しい風景とは、

自然と人が調和し、秩序を保ち、

それぞれが個性を出し合い輝いている風景です。

原村には大きく分けて「空・山・原・村」の

4つの美しい風景があります。

これらは原村にとって貴重な資源であり財産です。

これからもずっと守り続けていきたい、

守らなければならない風景です。



Featured Article 1

A beautiful scenery is a scenery where nature and people live in harmony, maintain order, and shine with each one's own individuality. Haramura's beautiful sceneries can be categorized into 4 main groups: the sky, the mountains, the fields, and the village. These are not only valuable resources, but are also great assets to Haramura. They are sceneries that we would like to and must continue to protect forever into the future.



原

H A R A



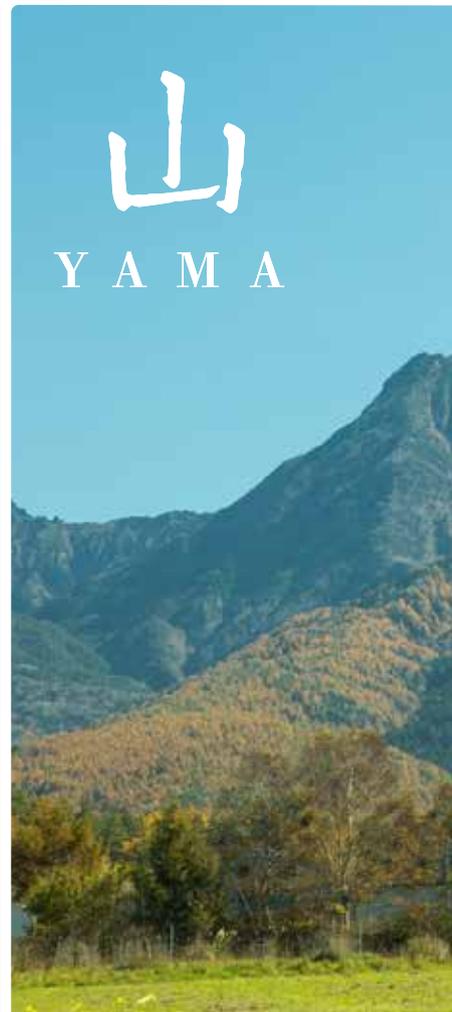
空

S O R A



村

M U R A



山

Y A M A

空

【ソラ】

/The Sky/

宇宙と原村

若宮 崇令

茅野市八ヶ岳総合博物館館長

星の輝きを見つめることは、
自分自身を真摯に見つめ、
向き合うこと。

6等星まで見える星空、天の川まで見える満天の星空は人々に感動を与えます。都会の星空は街のネオンや明かりが明るすぎて空まで明るくなり、6等星や5等星は見えません。3等星すら見えないところもざらにあります。これを光害といいます。美しい星空を見るのに一番大切なことは光害のない空の暗さです。次に大切なことは空気が乾燥していてよく澄んでいること。そういう場所で見える星空は素晴らしいものです。

八ヶ岳連峰の西側に位置する原村は光害が少なく、少し暗い所へ行くと6等星まで見える素晴らしい星空が臨めます。また、年間降水量は1300mm程度と、日本の平均である1700mmより大分少ない。つまり晴天率が高いということができます。冬の寒さは厳しいけれど雪の量は多くありません。日照時間は全国でもトップクラスの地域です。だから原村は星空を見るのに絶好の場所だと

いうことができます。

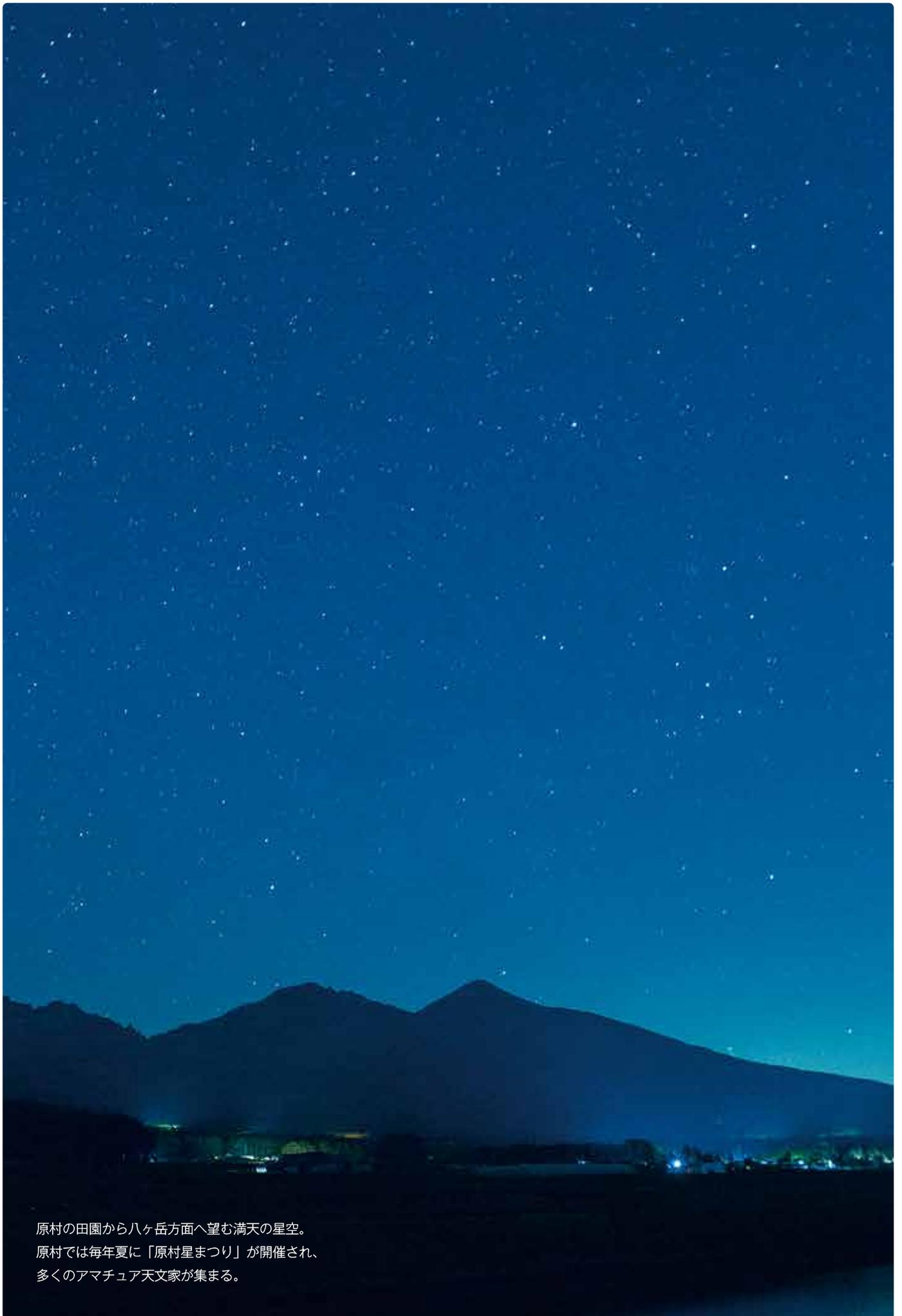
私には子供たちと星空散歩をしたり、星の説明をするとき、必ず伝えていることが二つあります。一つめは星まではとても遠いから、私たちが見る星の光は今の光ではなく、昔の光を見ているのだということです。例えばこと座のベガ(織り姫)は25光年のところにあるので、私たちが見るベガは25年前の光、つまり25年前のベガの姿を見ているのです。どの星も遠いので、何年も、何十年も、何百年も昔の光、すなわち昔の姿を見ていることになりました。星空はタイムマシーンで過去を見ているのと同じだということです。もう一つは星の色に注目しようということです。星は宇宙空間の塵やガスの中から生まれて輝きますが、年をとると輝く勢いが弱くなり温度が下がって赤っぽい星になります。だから赤っぽい星は年寄りの星、青白く輝く星は元気な若い若者の星なのです。人間に年寄りもいれば若者もいるよう

に、夜空の星も年寄りもあれば若いものもあるのです。色を見て星の一生に思いをはせてもらいたいということですね。当たり前のことですがこんなことをきつかけとして、ドラマティックに躍動している宇宙に興味を持ち、宇宙から生まれた太陽系宇宙、そしてそこに住む自分だということを認識し、宇宙を慈しみ、地球を慈しみ、自然を慈しみ、人々を慈しめる人間に成長してもらいたいと思っっているのです。

星の輝きを見つめることは、自分自身を真摯に見つめ、向き合うことにながります。それに十分に伝えてくれるのが、光害のない、空気が乾燥して澄んでいる、八ヶ岳山麓の原村の星空です。この美しい星空は原村の人々の共通の宝であり、財産です。光害を極力抑える工夫をして、素晴らしい星空の見える村を後世に伝えてほしいものです。

わかみや たかのり

元日本プラネタリウム協会 会長・前 川崎市青少年科学館館長。プラネタリウムクリエイター・大平貴之氏が子供の頃に、当時解説員だった若宮氏はプラネタリウムを操作させ、彼の後の活動に大きな影響を与えている。現在、茅野市八ヶ岳総合博物館にて館長を務める。



原村の田園から八ヶ岳方面へ望む満天の星空。
原村では毎年夏に「原村星まつり」が開催され、
多くのアマチュア天文家が集まる。





冬の原村は凜然とした雰囲気支配している。
澄んだ空気、雪で覆われた田んぼ。八ヶ岳が最
も美しく映える季節でもある。

山

【ヤマ】

/The Mountain/

ハケ岳は現代に生きる僕達に
本当の豊かさがなんたるかを
教えてくれる。

ハケ岳の思い出

三浦豪太

プロスキーマー・登山家



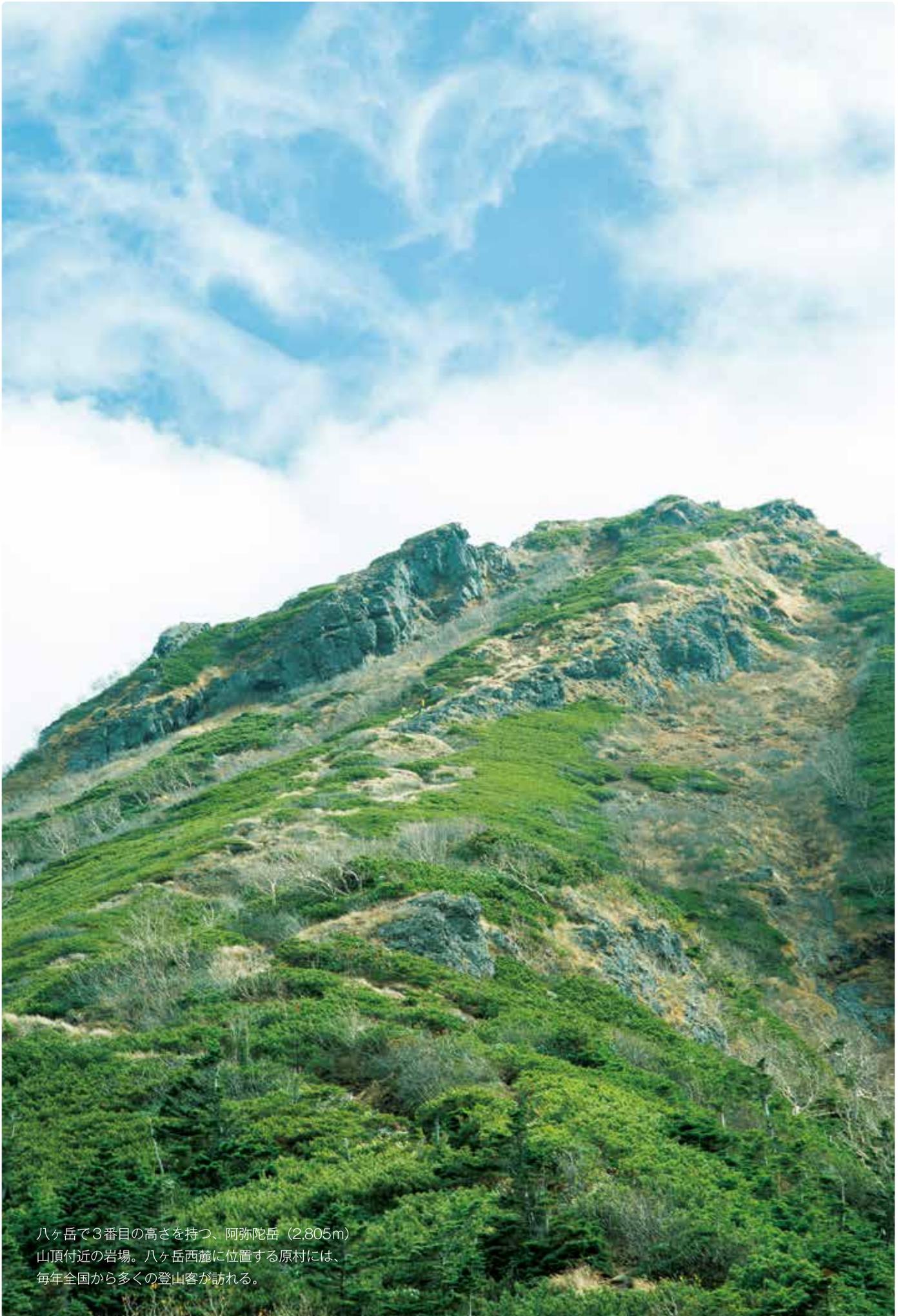
中央道を諏訪南インターで下りて、ハケ岳に向う県道に入る。正面にハケ岳を見ながら車を止め、外に出て大きく深呼吸。背伸びをするようにハケ岳の新鮮な空気をお腹いっぱい吸い込む。車で座っていた時感じていた背中とお尻のしびれるような鈍い感覚、そこに血が巡りスツと体と気持ち軽くなる。その一息は格別な一息である。ハケ岳に初めて来たのは僕が小学校の時だ。11歳の頃、キリマンジャロに家族で登りにいった。この模様をテレビ番組として取り上げられたのだが、その音楽を作曲してくれた先生がハケ岳におり、兄と僕とで遊びにきた。以来かれこれ30年以上ハケ岳を訪れている。

僕がハケ岳に行くとき必ず最初に訪れる所がある。原村でペンションを営んでいる、オーナーのYさんの所である。Yさんを僕は「メージン」と呼んでいる。何のメージンかというとなら自然を相手にした遊びなら大概何でも知っていからだ。どの川のどこに何の魚がいて、どうしたら子供の手でも魚をとる事が出来るのか、今の時期のどのあたりならどの標高でキノコや山菜がとれながらも地元で配慮した場所なのか、カブトムシを取りにいくならピンポイントで何時にいけばとれる可能性が高いのか、路肩に止めた車の止め方一つでそれが茸採りなのかハイカーなのか見抜く方法や、地蜂が好む餌をおいて、その地蜂に目印をつけて巣穴を探し一網打尽にした巣の中にある蜂の子を食べる最も美味しい料理法。メージンと一緒に遊ぶと尽きる事が無く、目をキラキラさせながら次々の新しい遊びを提案してくれる。ハケ岳の魅力と「メージン」に惹き付けられ、世界的に著名人達もいまやハケ岳近隣に居住してきた。世界的なパラグライダー選手、世界的な数学者、

一流バイオリン制作者、大学からも意見を求められる昆虫コレクター等。彼らはしょっちゅうメージンのペンションに出入りして話を持ち寄り夜な夜な盛り上がっている。そんなメージンからある日、知合いの農家の畑で矢尻がとれるから行ってみようかと誘われた。土を掻くとそれほど探さなくても黒曜石の矢尻がすぐに出て来た。メージン曰く「この地方では縄文時代、日本の人口の20%が住んでいたといわれている」と話してくれた。縄文時代において重要なのはきれいな水と農作物が育つ肥沃な土、そして安定した気候である。そんな恵まれた土地に棲む多くの野生動物に当時の縄文人達がその矢尻を使って狩りをして様子に思いを馳せた。ハケ岳は現代に生きる僕達に本当の豊かさがなんたるかを教えてくれる。

みうら ごうた

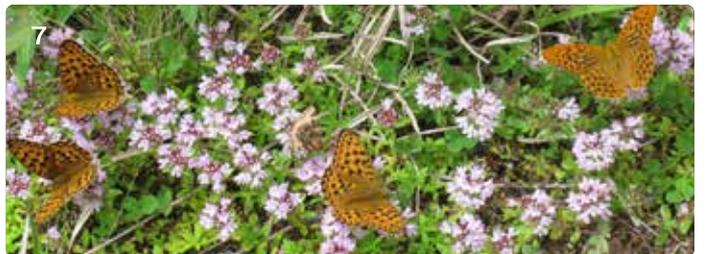
神奈川県鎌倉生まれ。アフリカ、キリマンジャロを最年少（11歳）登頂。94年（リレハンメル）、98年（長野）オリンピックに、スキー・モーグル競技で出場。2003年、父三浦雄一郎とともに世界最高峰エベレスト山（8848m）、初の日本人親子同時登頂記録を達成した。



八ヶ岳で3番目の高さを持つ、阿弥陀岳（2,805m）
山頂付近の岩場。八ヶ岳西麓に位置する原村には、
毎年全国から多くの登山客が訪れる。



阿弥陀岳の山名は山岳宗教に由来しており、山頂には阿弥陀如来の石像をはじめ多数の講中碑が奉じられている。展望は赤岳や横岳の西壁がよく観察できる。御小屋屋根の下部にある御小屋山は、諏訪大社の御柱として伐り出すモミの社有林があるため、別名を御柱山（おんばしらやま）という。



八ヶ岳ではさまざまな野性の生き物と出会うことができる。1 深山の森に棲むヤマネ(9月下旬) 2 山道を横切るカモシカ(4月初旬) 3 岩間に咲くハクサンイチゲ 4 食用キノコの中でも人気の高いハナイグチ(ジコボウ) 5 ミヤマシロチョウ(7月) 6 ツガザクラ(7月) 7 イブキジャコソウに集まるウラギンヒョウモン(7月) 8 日本の野生蘭のなかで最も美しいとされるホテイラン(5-6月)

原

【ハラ】

/The Field/

命と向き合う

藤井智之

八ヶ岳中央農業実践大学校校長

長い伝統に培われた
実践的な学習内容と
雄大な自然環境において
日本一の農業大学校です。

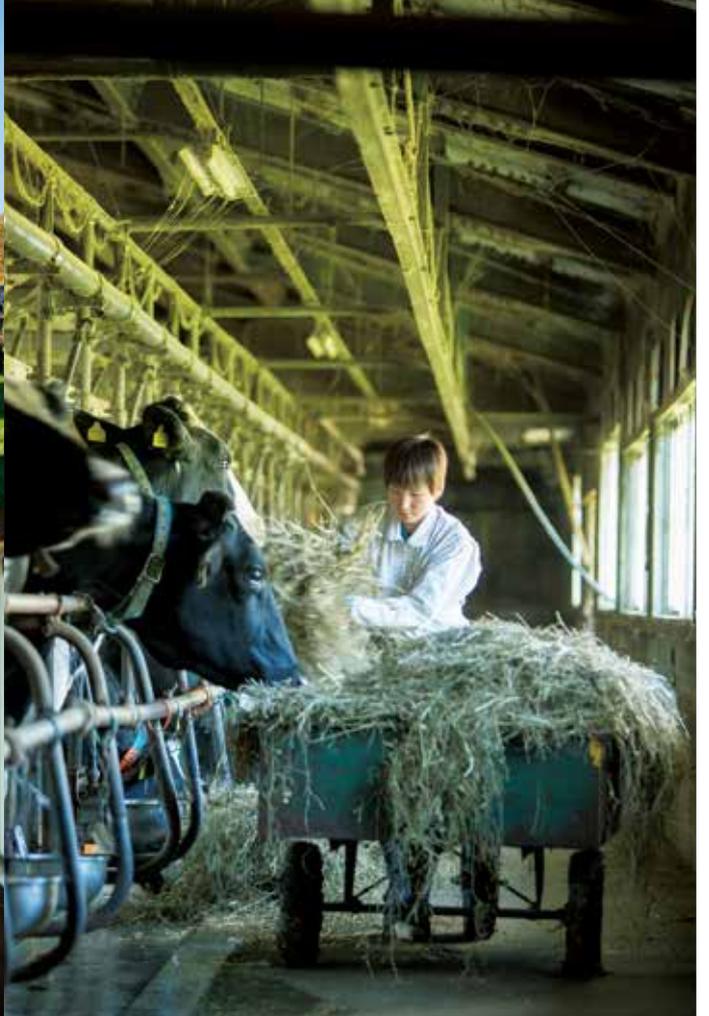
豊かな自然、澄んだ空気と鮮やかな緑に抱かれて、八ヶ岳中央農業実践大学校はあります。諏訪盆地を見下ろす標高1300mの高原に拓けた270ha余の大農場で、長い伝統に培われた実践的な学習内容と雄大な自然環境において日本一の農業大学校です。

本校は昭和13（1938）年に「八ヶ岳修練農場」として設立され、初代校長は、開墾を指揮した後の農林大臣の石黒忠篤先生、二代目校長は後の高知大学学長の久保佐土美先生です。職員と学生が一体となった農場開墾が基礎にあつて、師弟同行の理念と徹底した実践の教育方針が現在まで引き継がれてきています。卒業生はおおよそ3000名で、国内のみならず世界中で活躍し、一流の農業経営者や農村の指導者をはじめ、農業者や農団体の指導者をはじめ、多くの先輩方が活躍しています。

セロリーやブロッコリーなどの高原野菜やスイートコーンなどの畑作、シクラメンやパンジー・ビオラなどの花卉園芸、牧草地・放牧地を活用した乳牛による酪農、平飼いを含む採卵鶏の養鶏など、耕畜両面にわたる農業を営農規模で実践的に教育しています。特に先進農業技術の取り組みでは、移動搾乳技術の導入による新たな放牧酪農の実証研究やITを活用した生育予測技術によるトウモロコシ等の農産園芸作物の栽培実践などを進めています。

校内の直売所では、実践的な教育を目的として農業を事業として経営することにより生産される農産物を毎日販売しています。そこには、朝採り野菜や色とりどりの花卉、産直鶏卵など、そして毎日搾る生乳を原料とする牛乳・ヨーグルト・アイスクリーム・チーズなどの乳製品があります。

さらに、本校が日本最大の農林業教育ファームであることから、首都圏などから毎年2万人近い児童生徒が農林業体験学習に訪れています。都会の子供たちが、農業や食への関心を高めるとともに、「いのち」について学ぶ格好の機会ともなっています。また、社会人や高校生などを対象にした短期研修にも取り組んでおり、官公庁・団体等の新任者研修等幅広い分野の社会人を対象とした研修、毎年夏休期間中の高校生を対象とした1週間程度の研修会を実施しています。最近では、幼児に対する食育を狙いとして、幼児教育を担当する保育者等を対象とした農林業体験学習のプログラムを開発するため、研修会も開催しています。



村

【ムラ】

/TheVillage/

いまから6000年前、
信州では最大級のムラが
栄えていました。

縄文の里

会田進

長野県文化財保護審議委員

700万年とも400万年ともいわれる人類史の中で、日本列島における人類の歴史は4万年を遡るかどうかです。原村の歴史は2万年前の人類の足跡（柳沢の弓振日向遺跡）から始まります。縄文時代には、縄文王国とも縄文の都ともうたわれるほどに繁栄した地域でした。縄文時代前期、いまから6000年前ごろから営まれた阿久、そして繁栄の頂点、中期の菖蒲沢の大石・居沢尾根遺跡、柏木の前尾根遺跡には、信州でも最大級のムラが栄えていました。

縄文の都 八ヶ岳南西麓

縄文時代の八ヶ岳山麓は、標高900メートルを超える広大な緩斜面を形成し、一面に落葉広葉樹林が広がっていました。縄文人は、この豊かなモリとハラを最大限に利用して、最も巧みに食糧を生産・収穫する、人類史上最高の技術と英知を持っていたと考えられています。

日本文化のルーツ

縄文人は私たち現日本人の直接の祖先ということがわかってきました。2500年前日本が農耕社会に代わっても、縄文文化は深層文化として、日本の文化の中に根強く残り、大陸の文化と異なる特色をもっているといわれています。縄文文化が反映した証しは、たくさん遺跡・ムラがあることと、そこから出土する大量の土器や石器があることです。原村は小さな村ですが100か所の遺跡が集中します。そこから出土した縄文土器は、著名な井戸尻や尖石遺跡にも決して劣ることのない芸術性豊かで、造形美に優れています。

縄文土器の原始芸術

縄文土器の文様は世界史の中でも類を見ない独特の、個性豊かな原始芸術の美として世界に知られています。その特徴は、器面に浮き出た太い粘土紐によって描かれた豪壮、雄大、そして躍動する文様、竹細工のよう

な華麗、繊細な文様です。そして縁から上に突き出す獣や鳥や人間の顔を抽象化したような把手状の立体的な装飾、不可思議な絵文字のようなサイン文、またリズムミカルな繰り返しと調和の幾何学文、これらは縄文人のメッセージや物語を語りかけてくるような文様です。縄文人のものの考え方を表しているといわれ、見る人に強烈な印象を投げかけてきます。

縄文人の心を世界に発信！

縄文時代の一大中心地原村から

縄文人は大きな争いや戦をしませんでした。生命の誕生を祈り、子供の健全やかな成長を願い、弱者を虐げない、心の優しい人類であったことが知られています。縄文文化が豊かに育まれ、縄文人の血を、文化を色濃く残す八ヶ岳山麓のハラは、縄文人の平和な精神を引継ぎ、そして世界に発信できる地です。

あいだすすむ

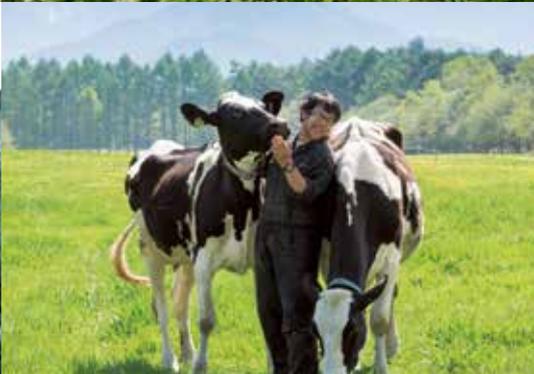
1947年、木曾生まれ安曇野育ち。市立岡谷蚕糸博物館に勤務、以後38年間文化財保護行政に専従、「蚕糸博物館紀要」編集などに取り組む。2002年、尖石縄文文化賞受賞。前長野県考古学会会長。2009年から原村在住。



ほおづえをついたような顔（右上）
 や器の中を覗き込むような顔（右下）は縄文の女性か、森の妖精か、
 何かを物語るような不思議な模様
 や立体装飾、原村の遺跡から発掘
 された個性豊かな縄文土器。

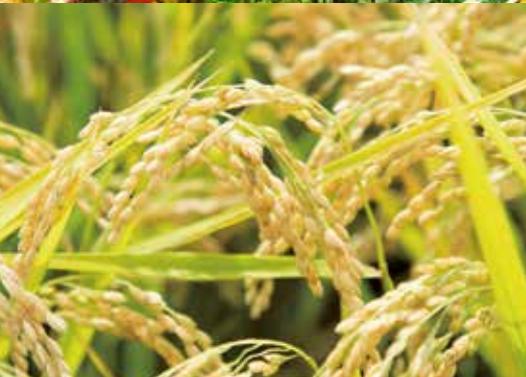


時間。
Time.





特集 2
美しい
Beautiful



特集3

美しい人

未来に希望を持ち、
夢を追いかける人は美しいものです。
いつまでも夢を持ち続ける人からの
メッセージを紹介します。

宇宙飛行士
山崎直子

NASA

STS-131

「宇宙に行くということは、
冒険というよりも、故郷を訪ねに行く
ようなものなのかもしれません。」

原村との 出会いのきっかけは 子ども時代の級友。

子ども時代の級友が八ヶ岳自然文化園に勤めているお蔭で、彼女が撮った原村の美しい写真を季節の折々に目にしていました。そのご縁で、2013年8月の「原村星まつり」に参加し、特別講演として「宇宙への夢」の話をしました。その後には、小学生の皆さんがアクアマリン作曲の合唱曲「星降る里」を綺麗なハーモニーで披露してくれ、また、花束ではなく新鮮で洒落たセロリ束をいただき、原村の美しさを感じたひと時でした。

人間も地球も星の子ども

原村星まつりでもお話したのですが、私たちの体は、もともと星のかけらで出来ています。太陽も地球も私達一人一人も、星の子どもなのです。2010年にスペースシャトル・デイスカバリー号に搭乗して、宇宙に到達して体がふわりと浮いた瞬間、とても懐かしい感覚がしまし

た。宇宙に行くということは、冒険というよりも、故郷を訪ねに行くようなものなのかもしれません。

宇宙飛行士が、ゴールではなく、そこから先をどう歩いていくか

しかし、この地球の重力圏を抜けて宇宙まで行くには、まだまだ挑戦の連続です。私自身、幼少期を過ごした札幌市で見上げた星空に惹かれ、その後戻って来た松戸市ではプラネタリウムに通い、宇宙への想いを膨らませてきましたが、実際に宇宙飛行士候補者になったのが1999年、そこから訓練や地上でのサポート業務を重ね、実際に宇宙に飛行したのが2010年。長い下積みの期間がありました。ですから、宇宙飛行士など何かになること自体がゴールではなく、そこから先をどう歩いていくかの方が重いのだ、ということを感じました。

また私は子どもの頃に学校の先生にも憧れていましたが、今、宇宙の授業をする機会も多く、宇宙と先生も繋がってきています。



(C) NASA

「この地球の姿をちょうど青く美しいと感じられるように進化してきたこと自体が素晴らしいことです。」

何かになるということは、自分だけではなく環境など外の要因に左右されることもあり、また変わることもあります。道を決められませんが、どんな道でも、その道をどう歩くかは自分で決められます。そして、そちらの方がきっと大きい意味をもつかもしれません。

また、宇宙から地球に帰還して、日ごろ見慣れている景色一つ一つがとも愛おしく思えました。風のささやき、草木の香り、土の感触、当たり前と思っていたことが、決して当たり前ではなく有り難いことだと感じました。そもそも、ちょうど可視光の色彩を感じられ、小鳥のさえずりを聞き取れる、この目、耳などの感覚は、素晴らしいものです。昆虫や別の生き物では、世界の捉え方が全然と違ってくることでしょう。宇宙から見る地球は青く美しいのですが、この地球の姿をちょうど青く美しいと感じられるよう

に進化してきたこと自体が素晴らしいことです。自分の五感を大切にしながら、一步一步を意識して歩んでいきたいものです。

やまざきなおこ

1970年千葉県市松戸生まれ。1999年に国際宇宙ステーション（ISS）の宇宙飛行士候補者に選ばれ、2001年に認定。2004年にソユーズ宇宙船運航技術者、2006年にスペースシャトル搭乗運用技術者の資格を取得。2010年、スペースシャトル・ディスカバリー号で宇宙へ。ISS組立補給ミッションSTS-131に従事した。2011年にJAXAを退職。現在は、内閣府宇宙政策委員会委員、日本宇宙少年団（YAC）アドバイザー、千葉県科学アドバイザー、などをつとめる。著書に、「宇宙飛行士になる勉強法」（中央公論新社）、「何とかなるさ」（サンマーク出版）、「瑠璃色の星」（世界文化社）、「夢をつなぐ」（角川書店）など。



原村星まつりにて講演を行う山崎直子さん



(C) NASA



(C) NASA



(C) NASA

天然プラネタリウムの役割

八ヶ岳自然文化園副館長 北原 芳誠

八ヶ岳自然文化園の科学館にはドーム直径13mのプラネタリウムがあります。星が良く見える高原にどうしてプラネタリウム？本物の星空があるのにどうして？との声も開館当時はわずかではありましたがあったそうです。でも見上げる星空はまさに天然プラネタリウム。その星空を学べる場としてプラネタリウムの魅力は、開館以来26年間多くの皆様に親しまれてきました。

特にその魅力が発揮されるのが、なんといっても季節に合わせて開催している星空観望会です。四季折々の星座を実際の空で確かめられるとあって、多くの参加者が集

います。特に記憶に残るのが、1998年から数年続いた“しし座流星群”への期待です。期待外れに終わってしまった3年間の後、ついに2001年その期待はすべて天が応えてくれました。流星群というより流星雨と呼べるほどのおびただしい流れ星に感極まる参加者の表情が今も忘れられません。また、最近では、2012年の金環日食の感動も同じく。太陽の中にすっぽりと入った月は、リング状に太陽の縁だけを残すという奇跡の瞬間を見せてくれました。リングを目にした参加者からも“わーすごい！”の声が一斉に上がったことは記憶に新しいところです。

そんな星空が少しずつ変化してきていることが気がかりです。八ヶ岳自然文化園では18年前から夜空の定点観測をしています。街明かりとは縁遠いような標高1280mでも、残念ながら毎年わずかですが暗かった夜空に影響が出始めています。街明りに起因するところは大きいでしょうが、温暖化の影響も考えられます。

今後は、星空を見られる貴重な場所として、その尊さも感じ取ってもらえるよう投げかけていくことも必要だと思います。夜空を見上げるきっかけづくりにプラネタリウムの役割は、さらに増していきそうです。

原村の星空は宝物

八ヶ岳自然文化園職員 平手 美環

排気ガスで汚れた空気、直接飲むことのできない水道水、満員電車で揺られ通勤していたOL時代、「もっと人間らしい生活をしないで」と強く心に感じ、思い浮かんだ場所は幼少期から毎年両親と訪れていた八ヶ岳でした。縁あって原村・八ヶ岳自然文化園にお世話になり十数年。大自然に強い憧れを抱いてはいたものの、天体に関心を寄せたり野鳥や小動物たちの姿に夢中になるとは思いもよみませんでした。原村の風土や環境が自ずと導いてくれたのかもしれませんが、また、科学館の宇宙展示をきっかけに、当時ロシアで訓練

中だった昔の級友・宇宙飛行士の山崎直子さんと再び連絡を取り合い、東京を離れ原村に移住したことを伝えました。スペースシャトル日本人最後の搭乗者となった彼女は、原村の小学生たちの歌声がおさめられたCDと共に宇宙へ旅立ち、特別講師をお願いした夏イベント「原村星まつり」では参加者との触れ合いを大切にされるなど、彼女もまた原村を愛してくださっていることを嬉しく思います。

ニュージーランドのとある村で「星空を世界遺産に」という声があった際は、驚きと同時に共感を覚えました。現地では光害（ひか

りがい）の少ないナトリウム電灯を使用するなどの積極的な景観維持努力が行われています。既に都会ではネオンの明かりで夜空が白っぽくなり、一等星より暗い星を見つけるのが困難な状況です。そのため近年は美しい星空を眺めるために都会から光害の少ない原村へ足を運ばれる方も多くなりました。

今は当たり前にある夜空が実はとても貴重であり、今後も守っていかなくてはならない原村の財産・宝物であることを深く心に刻んで、観望会などを通して多くの方へお伝えしたいと思っています。

CASE

スポットライト

01

村に移り住むひと

近年、都会から地方に移住する人が増えています。原村も例外ではありません。自然豊かな原村での暮らしはどのようなものでしょう。神奈川県から原村への移住を経験した齋藤さんに伺いました。

苗農家
のぶかず
齋藤 暢一・志穂さん



毎朝、自宅から5分の距離にあるハウスで水くれをする齋藤さん。特に9～11月の出荷量が多い。全国各地に出荷されます。



移住するきっかけ

齋藤さんは2009年に神奈川県から原村に移住してきました。きっかけは介護士として働いていた職場で一緒だった、原村出身の奥さん（志穂さん）との出会いからです。神奈川県での生活も考えましたが、2人とも自然に囲まれた場所で暮らしたいという想いが一致して、奥さんの実家である原村への移住を決めました。

現在、齋藤さんは花苗農家として働き、奥さんと長男の3人で暮らしています。初めは研修も兼ねて奥さんの実家の稼業である花苗農家を手伝い、4年前には独立。今では夫婦2人で年間20万ポット以上の花を全国に出荷しています。「やることはた

くさんあるけど、縛られている感覚がないのが良い。」忙しい仕事の一方で、自分のペースで仕事内容を決めたり、八ヶ岳の自然を楽しんだり、その話からは充実した暮らしぶりが伺えます。

歓迎してくれる村

齋藤さんは地域の消防団や、若手農業者の会にも所属しています。「ひと昔前は移住者に対して排他的な人も多かったそうですが、今はむしろ歓迎してくれる人のほうが多いと思います。」地域の人とのコミュニケーションを大切にする齋藤さんだからこその説得力のある言葉です。原村では移住を考えている人の窓口もあります。お気軽にご相談ください。

移住者に人気！原村

八ヶ岳のふもとに広がる原村は、都会からの移住者を中心に毎年多くの方が移住する人気スポットです。現在、高齢化率は30.1%（平成25年10月1日毎月人口調査）ですが、若者の定住を進めるため、村では40歳未満の方がリビングゾーンやテクノパークゾーンに住宅を建てるか新築住宅を購入した場合に50万円の補助金を交付しています。

原村の人口と世帯数



平成27年3月31日現在 住民財務課

文化をつなぐひと

原村には「裂き織（通称 ぼろ機織り）」と呼ばれる、古い着物などを織り直して再利用する文化があります。裂き織歴 80 年の秋山鶴さんはその伝統を守り、次世代に伝える活動をしています。

裂き織作家

秋山 鶴さん



鶴さんが織った財布、ベスト、敷物。「鶴さんの作品には、優しい雰囲気が溢れている。そして色遣いが素晴らしい。」と、鶴さんを知る人は誰もが口を揃えます。

ひと 伝統を伝える女。

秋山鶴さんは大正11年ハッ手生まれ。物心ついたときから裂き織りに親しんできました。「親が織ってたもんで、まあその頃はどの家でも一軒なしに織ってたで。」

裂き織りは布を無駄なく使い切る知恵として戦前から日本各地で行われてきました。しかし、安価な繊維が海外から輸入されるようになると裂き織の存在は徐々に影をひそめていきます。

昔から親しまれてきた伝統を絶やさないため、鶴さんたちは活動を続けています。「裂き織りは昔から農家の親から子へと受け継がれてきた歴史があるで、忘れ去られていく裂き織りの心

を伝えるため、誰にでも教えてきた。」

毎年3月にはハッ手区を中心とした「ハッ手裂き織り保存会」が展示即売会を開催しているほか、椋の木荘の前にある手織り工房 織音舎では裂き織り体験と作品の販売が行われています。

今年で93歳になる鶴さん、2人のお孫さんにも裂き織を指導し、伝統文化の継承に努めています。



裂織を体験してみよう！

無料の機織体験を原村郷土館で実施しています。織り上げた布は材料代のみで、持ち帰れます。子供から大人まで誰でも楽しめるのでお気軽にご利用ください。

◆機織体験のご案内

◎体験期間：7月～9月

◎予約：必要なし。

◎体験時間：一人1時間程度。

◎料金：体験のみ無料です。

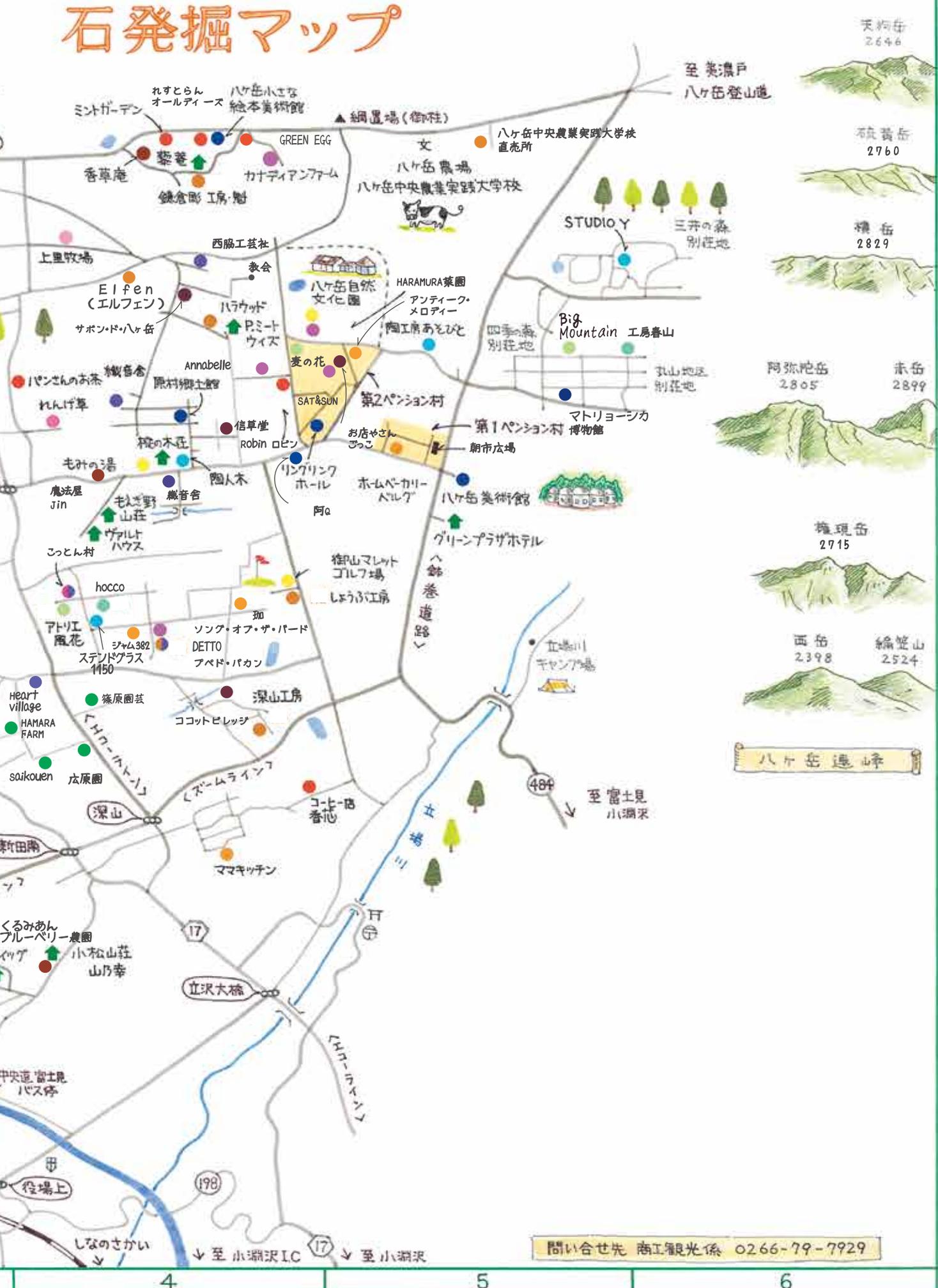
※機織機がない場合は、

少しお待ちいただくこともあります。

※お持ち帰りの場合は材料代を頂きます。



石発掘マップ



天狗岳
2646

石黄岳
2760

糠岳
2829

阿弥陀岳
2805

赤岳
2899

権現岳
2715

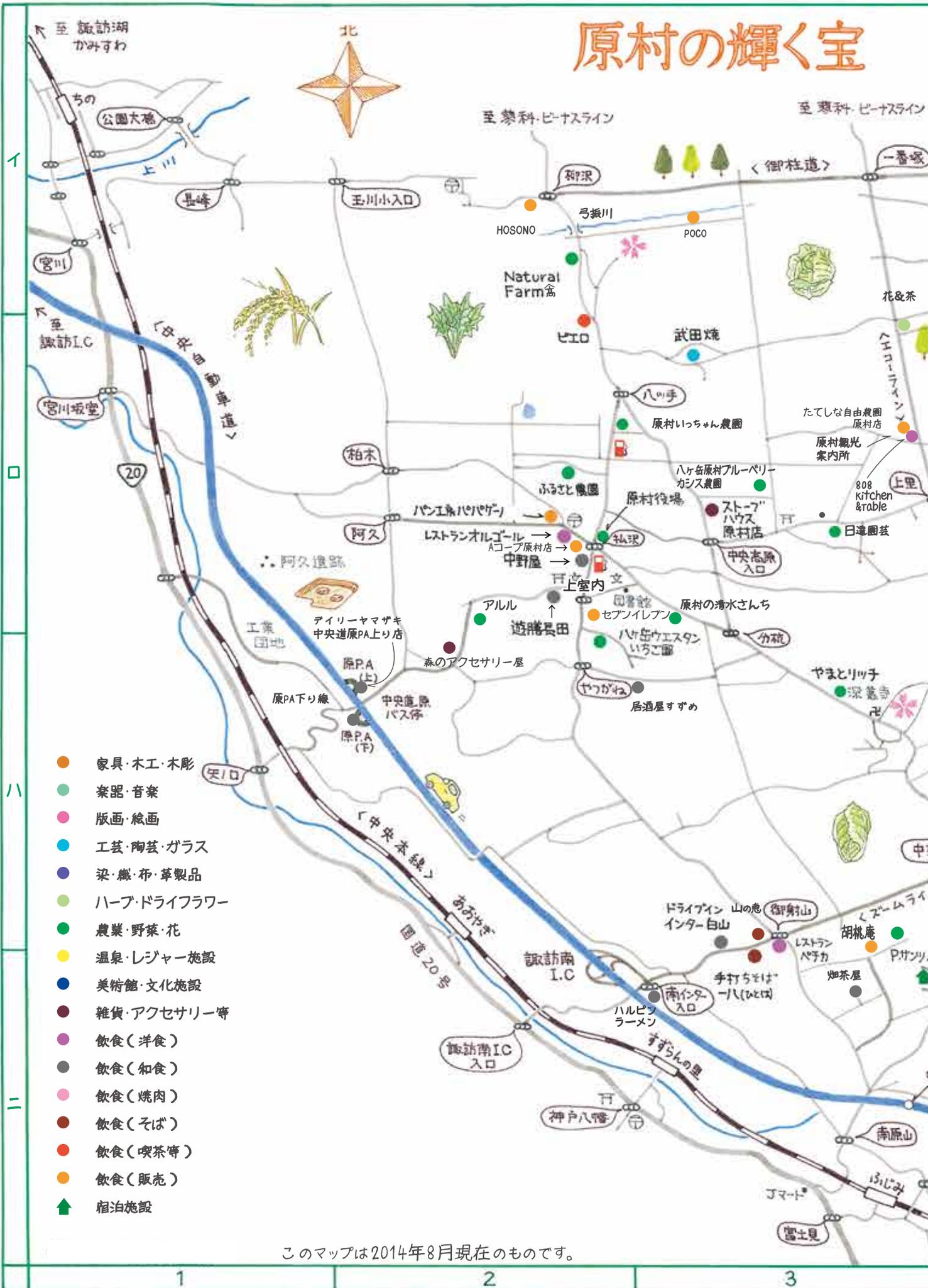
西岳
2398

綿笠山
2524

八ヶ岳連山序

問い合わせ先 商工観光係 0266-79-7929

原村の輝く宝



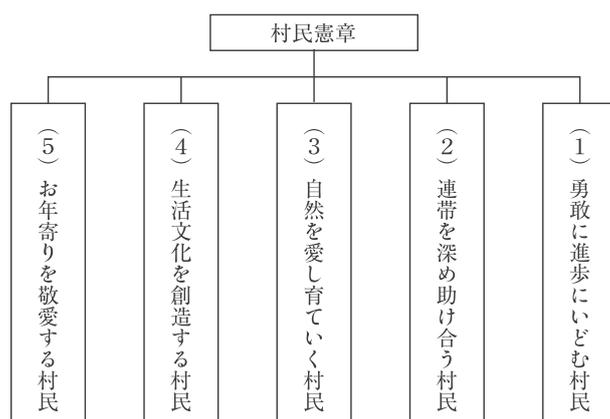
- 家具・木工・木彫
- 楽器・音楽
- 版画・絵画
- 工芸・陶芸・ガラス
- 染・織・布・革製品
- ハーブ・ドライフラワー
- 農業・野菜・花
- 温泉・レジャー施設
- 美術館・文化施設
- 雑貨・アクセサリ等
- 飲食(洋食)
- 飲食(和食)
- 飲食(焼肉)
- 飲食(そば)
- 飲食(喫茶等)
- 飲食(販売)
- ▲ 宿泊施設



伊藤 理佐さん (漫画家)

原村枳沢区出身。1987年、『月刊 ASUKA』に掲載された「おとうさんの休日」でデビュー。代表作に「おいピータン!!!」「ヒゲびよ」「幸福のスヌメ」など。『おるちゅばんエビちゅ』は大ヒットし、アニメ化された。また『やっちゃまったよー戸建て!!!』などのエッセイ漫画でも知られる。

人も地域も輝く
緑豊かな原村



生活・環境

人と自然を大切にしたり 住みよい村づくり

自然・景観・環境 村の宝を守る

原村は雄大な自然を活かし、落ち着いた雰囲気のある保健休養地を目指してきました。昭和56年(1981)、中央自動車道諏訪南インターが開通した翌年に原村自然環境保全条例(以下「旧村条例」)を施行、平成9年度(1997)には旧村条例を一部改正し、原村環境保全条例が施行されました。八ヶ岳中央高原をはじめとした村内全域を不要な開発から守るため厳しく規制して、良好な環境と景観の保全に努めてきました。

若い世代へ住みよい村

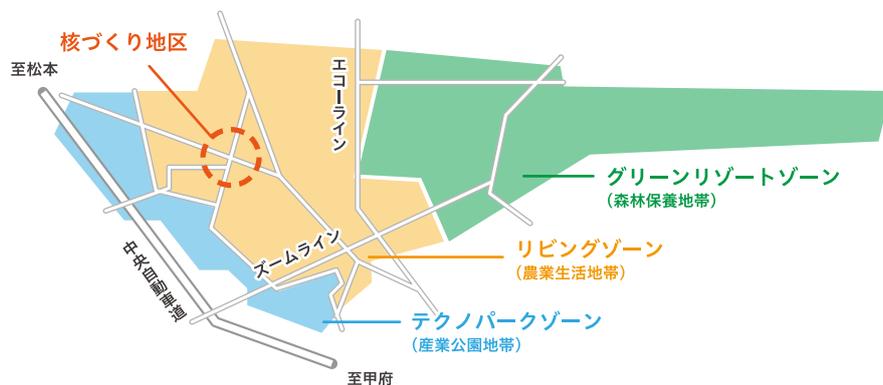
20〜30代を中心とした若者の定住の促進を図るため、40歳未満の個人が宅地等開発地内(リビングゾーン、テクノパークゾーン)に住宅を新築した場合、補助金が交付される制度が平成

18年度(2006)に設けられました。その結果、毎年約20件への交付が実施され、リビングゾーンへの定住

誘導に効果を発揮しています。

森林の里親になる

森林の里親事業は、企業・住民・行政のパートナーシップにより、地域の森林を育くむ事業です。ENEOSと「森林の里親」契約を結び、「未来に残そう『原村・ENEOSあゆみの森』」をテーマに森林を整備しています。また、



この事業ではENEOS社員が原村を訪れ、社会貢献活動として森林整備作業を実施し、原村の自然に触れたり住民との交流を図る取り組みを推進しています。

循環型社会を目指して

ごみの排出量を抑制し、将来的には焼却ごみゼロをめざすため、ごみ3R（発生・排出抑制、再利用、再利用）運動や観光客へのごみ持ち帰り運動などを推進し、ごみの排出抑制を図っています。

ごみのリサイクル率は、平成16年度（2004）はごみの総排出量の20%でしたが、平成20年度（2008）には22%に上昇し、住民にリサイクル意識が徐々に高まっています。

村ではごみ処理基本計画を作成し、平成27年度（2015）には一人が1日に出すごみの量を588.7g、リサイクル率を31.4%とする目標を定めました。

また、ごみを出さない生活スタイルを広げるために、消費者団体や事業者と協力して、レジ袋の削減に取り組んでいます。原村消費者の会では、レジ袋削減県民スクラム運動の一環として店頭啓発を毎月実施し、ごみの原料・

資源の利用削減・二酸化炭素の排出削減につながる『不要なレジ袋の削減』を推進しています。

今後ごみ処理基本計画の目標を達成できるよう、行政、事業者、住民がそれぞれの役割分担を認識し、3R運動に取り組みます。

水から暮らしを見直す

原村では、20年後までの生活排水対策の構想である原村「水循環・資源循環のみち2010」を策定し、長野県と協力して快適な環境を持続していただけるように、生活排水施設のあるべき姿を検討しました。

これまでも自然環境や水循環を保全するため、昭和60年（1985）から生活排水対策（下水道、浄化槽）を進めてきましたが、今後は核家族化や高齢化など生活環境の変化への対応が求められています。

このため、50年先を見据えた経営計画に基づく生活排水施設の維持管理の効率化等の実現可能な内容を検討します。また、下水道接続率の向上、合併浄化槽への転換促進、汚泥の埋立処分から資源活用への移行等を促進するために、持続的な排水処理施策を実施して、公共用水域の水質保全や資源の有

効活用を目指します。



[Lifestyle and Environment]

Planning for a Comfortable Village Which Respects Its People and the Natural Environment

Protecting Nature, the View, and the Environment

Haramura has been working toward becoming a recreation site with a calming atmosphere while respecting its enormous natural environment at the same time. In 1981, the Haramura Environmental Protection Act was issued and since then, we have been working hard for a favorable environment and preserving the beauty of it.

Making It an Easy Village to Live in for the Younger Generation

To increase permanent residents among young people mainly in the 20s and 30s, there is a subsidiary program for individuals under 40 years of age when they construct new homes within the real estate development area (Living Zone and Techno Park Zone), and subsidies are provided annually to approximately 20 households.

Fostering a Forest

The Forest Fostering Project is a project run by the partnership of environmentally passionate companies, residents, and the local government administration to develop local forests. ENEOS has tied up with an organization called "Forest Foster Parents" and together they take care of the forest.

Aiming for a Recycle-Based Society

In order to cut down on the amount of waste that is disposed to zero combustible waste, we are formulating a plan for waste reduction. The village came up with a basic waste disposal plan which targets to reduce the amount of trash discharged per resident each day to 588.7g and raise the recycle rate to 31.4%.

We are also working with consumer groups and businesses to promote a lifestyle which creates less waste by decreasing the use of disposable shopping bags.

Reexamining Our Lives from How We Use Water

In Haramura, we have mapped out a plan called "Haramura's Road to Water and Resource Circulation 2010," a blueprint for tackling household sewage issues over the next 20 years.



健康・福祉

健康と幸せを誇れる

福祉の村づくり

日本一元気な村

2010年度の国勢調査で65歳以上の高齢者の就業率を見ると、全国平均が20%であるのに対して、長野県は全国第1位の27%、その中でも原村は45%と圧倒的な高さを誇ります。農業を主産業にする地域性と、芸術家やクラフトマンが移り住んで活動しており、高齢者でも元気に働ける環境だと言えます。

充実した福祉制度

原村は福祉行政が充実しています。昭和56年度（1981）から全国に先駆けて、65歳以上の医療費を無料化、その他各種健診も無料にすることで、早期発見・早期治療などの予防医療にも力を入れています。

原村国保診療所は住民の生涯にかかわるかかりつけ医として地域に密着した診療を行っており、地域医療の推進



農閑期の健康づくり。講師を招き血流を良くしたり、筋力をつける有酸素運動を行っている。

を図っています。また、村と国保診療所が連携し、健診体制の検討、運動教室の実施など健康づくりのための事業を推進し、保健・医療サービスの包括的な取り組みを行っています。予防面では、高齢者を対象にした運動機能向上や認知症予防、栄養改善などの介護予防教室を開催しています。また、在宅生活支援のため様々な福祉サービス事業を実施し、高齢者が住み慣れた環境で生活できるよう支援しています。

障がい者の社会参加

障がい者が、地域で安心して生活できるよう、ホームヘルプサービスやデイサービスをはじめ、補装具・日常生活



子育てを学ぶ「あひるくらぶ」のピクニック



中央公民館の山歩き講座

活用具の給付とともに、原村医療費特別給付金制度や重度心身障がい者福祉年金（介護慰労金）の支給などを行っています。

また、地域活動支援センターを開所し、生まれ育った地域で仕事ができ、多くの人と交流を深める中で、地域の一人として生活を送れるよう支援しています。

子育て支援の充実

男性も女性も、働きながら子育てをすることができ環境づくりを進めるため、保育園では、延長保育や一時保育などを、幼稚園では子育て支援事業を実施しています。

また、18歳までの子どもの医療費の無料化や、保育料の第二子半額、第三子以降無料化、保育園・幼稚園の通園費補助などを行っています。

さらに「子育てサロン」では、親子で一緒に遊ぶ場の提供や、子育て中の親子交流、育児不安などの相談、育児講座などを開催しています。核家族化が進み、子育てを行う親同士や隣近所の交流が少なくなってきたことから情報交換の場として機能しています。

地域住民による子育て支援を促進するために、会員組織による育児の相互援助活動事業や、主に0～3歳の子どもを育てる親子が集い、交流を深められる「あひる広場」や「子育て塾」を設置するとともに、より多くの場面で地域の人と交流する機会を設け、地域全体で子育てを応援する環境づくりを目指します。

傾聴ボランティア

現在、様々な理由で「話したくても話せない（話す機会がない）」人々が増えていきます。特に高齢化や核家族化が急速に進展する中で、話す機会のない高齢者が増えており、高齢者の心のケアが課題とされています。

傾聴ボランティアは話を聴くことにより、高齢者などの精神的な健康の維持や回復の援助をするボランティアです。相手との信頼関係を前提に、相手の気持ちまで受け止める傾聴ボランティアは高齢者ばかりでなく、あらゆる世代の方に求められています。

原村では、傾聴ボランティアグループ「のぞみ」が活動しており、福祉施設や独り暮らしの高齢者宅などを訪問して心のケアを行っています。



[Health Care and Welfare]

Planning for a Village with a Welfare System Which Takes Pride in the Health and Happiness of Its People.

Continuing to be the Healthiest Village in Japan

Even on a national level, the employment rate of senior citizens is quite high in Haramura. Looking at the employment rate of seniors over 65 years of age, 2010's national census not only put Nagano in first place of all prefectures in the country with a rate of 27%, but ranked Haramura exceptionally high with a proud rate of 45%.

Having a Generous Welfare System

In Haramura, people are well-provided for with good welfare administration. We are putting an effort in preventative medicine to prompt early detection and early prevention by covering all medical expenses for those over 65-years-old and making the various regular examinations free of charge for them. We run various social service programs such as care prevention classes geared for the elderly with exercise capacity enhancement, cognitive impairment prevention, and nutritional improvement, as well as various social services for supporting homecare life.

Involving People with Disabilities into the Community

In order to let people with disabilities live comfortably in the community, we provide

everything from homecare and day services to provisions of supportive devices and daily necessities of life along with benefits such as the Special Medical Care Benefits Program of Haramura and the People with Heavy Disabilities Welfare Pension (Family Nursing Bonus).

Offering a Wholesome Childcare Support Program

At the day-care center, we offer extended hours and temporary childcare, and at the nursery we have started a childcare support program. As for financial support, medical expenses are free of charge for children up to 18-years-old, day-care expenses are halved for the second child and free for the third child onward. There is financial support for services such as attending the day-care center and the nursery.

Implementing Active Listening Volunteers

There are more seniors who do not have anyone to talk to, and the issue is how we can care for them. Currently, there is an active active listening volunteer group called "Nozomi," which visits social service facilities and single senior households so they can care for the psychological well-being of these residents.



教育・文化



毎年春と秋に行われる「原村クラフト市」には全国から作家が集まります。

人と文化を育む村づくり

魅力ある生涯学習

原村では、むらづくり講座（行政出前講座）を実施しています。地域集会や団体の会議、学校の授業などに村の職員が講師として出向き、村の事業や施策などについて話をします。講座をきっかけとして、継続的な学習活動と行政への参加を促しています。

テーマは、村の財政状況、地域福祉、各種診断、農業振興、商工業振興、観光事業、リサイクル事業、教育行政、社会教育、防災知識、地域づくり、総合計画など多岐に渡ります。

その数は100テーマ以上になります。

生涯学習施設としての図書館

原村図書館は保育園、小学校に隣接して開設当時から子ども読書活動推進に力を入れています。現在も子どもの読書ボランティアグループ「このこ」が読み聞かせ会を定期的開催しています。蔵書には産業支援として農業、宇宙関連の本も揃えています。電子書籍リーダーの貸出や、国立国会図書館デジタルミュージアムの閲覧も行っています。

平成25年度には住民一人あたり貸出数が、長野県下の図書館で第2位となりました。原村図書館は冷暖房を完備し、長野県が実施する「あったかシェアスポット」「クールシェアスポット」にも登録しています。近年、村外からの来館者も増加しています。



彫刻家 清水多嘉示作「みどりのリズム」



7年に一度の天下の奇祭「諏訪大社 御柱祭」において原村は諏訪大社上社の御柱8本が曳き出される御柱の里です。

多彩な才能が集まる アートビレッジ

原村には多くのクラフトマンや芸術家などが移住し、工房やアトリエを構えて制作活動をしています。原村の閑静で豊かな自然環境が作品に対する創造性や制作意欲を湧き立たせるのに大きな役割を果たしていると言われています。八ヶ岳自然文化園では定期的にクラフト市を開催し、地元を始め県内外のクラフトマンの作品を展示販売しています。また八ヶ岳美術館では様々な芸術家の作品を展示する特別展を開催し、「アートビレッジ」をPRしています。

歴史を集め、歴史に学ぶ

原村歴史民俗資料館（八ヶ岳美術館）は、村内外の芸術家などによる特別展を行っています。周囲の自然と調和した施設整備を進めるとともに、何度来ても楽しめる美術館を目指しています。

原村郷土館は、民俗資料を展示し、昭和30～40年代の農家の生活復元を進めています。今後も資料の収集と保存活用を行っています。この地方の農家の冬場の手仕事として古くから行われてきた、ぼろ織りの体験学習を行い、技術の伝承を図るとともに物を大切にすることを育て、誰でも楽しめる施設にしていきたいです。

一村一校

村内には、保育園、幼稚園、小学校、中学校が各1校ずつあり、一村一校のメリットを活かして連携した教育を行っています。また、高等教育機関として八ヶ岳中央農業実践大学校がある



毎年作られる原中学校卒業記念ブロンズ

り、雄大な自然の中で全国から集まった生徒達が、畑作や園芸、酪農などを学んでいます。高校は車で30分以内の範囲に6校、車で約15分程度のところに大学が1つ、と恵まれた教育環境が整っています。

小さな村から大きな視点を

人づくり事業のひとつとして、平成9年度からニュージーランド・プケコヘに中学生の海外ホームステイ事業を行っています。ホームステイや学校生活等の体験学習を通じて、外国語による表現力と理解力を高めるとともに、郷土を正しく認識し、国際感覚豊かな青少年の育成を図ることを目的としています。



「星空の映画祭」は八ヶ岳自然文化園で開催されています。



ニュージーランド・プケコヘの中学生との交流

[Education and Culture] Making a Village That Helps People Grow and Cultivate Culture

Providing Attractive Opportunities for Lifelong Learning

In Haramura, we have village planning courses (delivered workshops by the administrative office). A personnel from the village office will head out to community gatherings, meetings for organizations, and classes at schools to speak about topics such as the village's projects and plans so as to encourage continuous learning habits and promote participation in administration.

Using the Library as a Facility for Lifelong Learning

The Haramura library has been putting effort in promoting reading habits for children since when it first opened. A volunteer story-telling group for children called "Nokonoko" regularly gives story-telling shows there.

During the 2013 fiscal year, Haramura had the second most number of books to be checked out per resident from the library out of all of Nagano.

Having an Art Village Where Diverse Talents Converge

Many craftsmen and artists who have moved to Haramura from the cities have social connections with and give advice to metropolitan residents who are interested in moving to the countryside, promote accommodation at lodging facilities to visitors, and work on branding Haramura into the "Village of Art" by networking artists with each other.

Collecting History and Learning From It

The Haramura Museum of History and Folklore (The Yatsugatake Museum) holds special exhibitions by artists within and without Haramura, and it is aiming to become a museum that can be enjoyed on every repeated visit.

The Haramura Folk Museum displays folklore, and is currently being renovated to reproduce the lifestyle of a typical farmers' home in the 30s to 40s of the Showa Period.

Sticking to the One Village One School Style

The village has a collective style of educating with one day-care center, one nursery, one elementary school, and one junior high school each. For higher education, there is the Yatsugatake Central College of Agriculture, where you can learn about farming, gardening, and dairy farming.

Taking a Big Perspective from a Little Village

As part of the human development program, we have been hosting the Junior High School Students' Homestay Program in Pukekohe, New Zealand since the 1997 fiscal year. Our goal is to enhance the students' abilities to express themselves in and understand a foreign language, as well as to cultivate internationally-minded youths.



産業・観光

環境と共生した 活力のある村づくり

農業の振興と 農産物の付加価値化

原村は、日本一の生産高を誇るセロリーやブロッコリー、ホウレンソウ、パセリ、キャベツなどをはじめとする高原野菜の産地です。雄大な自然環境と、夏場の冷涼な気候を活かし、首都圏をはじめとする全国各地に出荷しています。

また、原村の花は日照の豊富さと昼夜の温度差により、色鮮やかで日持ちがすると評判です。近年は生産高日本一のアネモネのほか、スターチスやトルコギキョウ、アルストロメリア、シクラメンなど、全国屈指の産地となっています。

近年は、農業従事者の減少と高齢化により遊休農地の増加等さまざまな課題に直面しています。今後、担い手を中心に主要農産物の振興を図るとともに、高収益作物の導入や観光農園など、他産業との連携や、有機作物への転



直売所では毎朝穫れたての農産物や地元ならではの加工品が並び、地元民や観光客で賑わう。

換など、付加価値化を図ります。また、農産物の6次産業化を推進し、原村独自の付加価値の創出、新たな産品の開発を進めます。消費者ニーズの多様化、流通経路の多様化にも対応して、やりがいと魅力ある農業を進めていきます。

地域資源を活用した 活性化

原村の森林面積は1974ha(平成26年度)あります。森林は国土保全、水源のかん養、地球温暖化の防止、林産物の供給等さまざまな機能を通じて住民生活に寄与しています。

原村では、村・森林組合・森林所有者が連携を図り、さらにボランティア活動、企業のCSR活動を取り入れながら、計画的かつ長期的な視点に立ち森林を育成しています。

今後は森林浴や自然体験林としての交流やレクリエーション、イベントに活用するなど、森林に親しみを持ってもらい、楽しみながら地域の森林を守り育てていきます。林業の振興と共に美しい森林がある農村づくりを目指します。

観光を中心とした、 各産業間の連携による 「原村ブランド」の創出

原村は、夏場を中心に豊かな自然と涼を求める観光客で賑わっています。高原の爽やかな気候に、澄んだ空気と清らかな水、雄大な自然の中にペンションや八ヶ岳自然文化園、八ヶ岳農場、八ヶ岳美術館、もみの湯などの観光施設があります。

また、多くの芸術家やクラフトマンなどが、移住しアトリエや工房を構えている場所でもあり、自然とアートが融合した滞在型・周遊型の観光地とな

りえる所です。

今後は、観光を中心とした多面的な観光施策を推進していきます。体験型観光などの受け入れ体制の強化、地域資源の有効活用と他産業との連携など、産業の振興と地域の活性化のため、地域住民の協力を得て進めていきます。

自然を中心とした活力ある美しい村づくりを目指し、「原村ブランド」の確立に向けた取り組みを進め、田舎体験に応じた地域資源、星やアートなど、原村ブランドを活かした情報発信による、観光振興に努めます。

商工業と環境の共創

原村の商業は、平成24年の経済センサスで商店数38カ所、従業員数1177人、年間販売額約23億8千万円となっています。経営規模は1〜4人の商店が多数で、消費人口規模が少なく、地域が散在していることなどが特色です。

原村の工業は、平成24年の工業統計で事業所数19カ所、従業者数334人、製造品出荷額62億3千万円となっています。そのほとんどが零細企業です。これらの企業に対し、原村及び原村商工会などによる経営指導や各種融資などを進め、

育成指導に努めて、観光業との連携による活性化に取り組んでいます。

また中小企業の経営安定、技術革新に対応する設備整備づくり、新分野への進出、経営発展の助成などの制度資金の充実を図っています。

そのほか諏訪地域を中心に広域的、地域横断的に産業活性化を行う「NPO法人諏訪圏ものづくり推進機構」とタイアップし、各団体・組織・企業が協働して行う広域的連携事業や新たな連携やコーディネートネットを行っています。

生産高日本一のセロリーやブロッコリー、シクラメン。新鮮な状態で全国へ届ける為、夏のピーク時のセロリーの収穫は日の出前の午前2時から始まる。



[Industry and Tourism] Planning for a Vigorous Village That Lives in Harmony with Its Environment

Promoting Agriculture and Value-Added Farm Products

Taking advantage of its cool summers, Haramura has developed into a major producer of highland vegetables such as celery, which Haramura is the top producer of in Japan, broccoli, spinach, parsley, and cabbage, to name a few.

Haramura is also a nationally reputable producer for beautiful flowers such as the Anemone, which Haramura is the top nationwide producer of, Stative, Texas Bluebell, Alstroemeria, and Cyclamen.

We will continue to keep the farming industry attractive by incorporating more high income crops, shifting to organic farming, and promoting association with other industries, in other words, boosting sextiary industrialization.

Inigorating the Community with Local Resources

Haramura was estimated to have had a forest area of approximately 1974ha in the 2014 fiscal year. Forests contribute to residents' lives through their various functions such as conserving national land, cultivating watersheds, preventing global warming, and providing for forest products.

We will hold hands-on learning programs to study about the multidimensional functions of forestry such as environmental protection and further promote the advancement of forestry.

Creating the "Haramura Brand" of Networked Industries with Tourism at Its Core

Haramura's tourism is bustling especially in the summer with tourists seeking a rich natural environment.

We will be strengthening the receiving body for tours, namely experience-based tours, optimizing local resources, and liaising industries.

We are working on efforts to achieve the "Haramura Brand," and hope for the development of a beautiful village.

Co-creating between Commerce and Industry and the Environment

From Haramura's 2012's business reports, Haramura consisted of a total of 38 businesses and 117 employees, and the annual sales amount totalled approximately 2.38 billion yen.

Whereas, Haramura's manufacturing industry reports indicated that there were 19 offices and 334 employees, and that 6.23 billion yen worth of manufactured products were shipped out. Planning for a sufficient funding system geared towards small and medium-sized businesses to help stabilize management, build a platform that is compatible with technical innovations, advance into new fields, and boost business performance is currently in progress.



行政

美しい風景と

村民の声を活かす村づくり

みんなが主役の村

八ヶ岳山麓の雄大な自然と農村の美しい景観は原村の貴重な財産です。豊かな自然と景観、そして人々の営みによって育まれてきた伝統文化が保たれています。

今後も、「村」が持つ美しいイメージを大切にしながら、特色を活かしたエコビレッジを目指します。住民と行政が協力して「原村」のブランドイメージを育て、積極的に発信していきます。

原村住民のシンフォニー

村づくりは、行政と住民、それぞれが主体となって行動する共同事業です。原村では、地域の住民が考え、行動して、地域づくりを自分たちの問題として取り組む「おらほうの村づくり事業」や道路水路の維持補修などを行う「建設資材等支給事業」などを行なっています。また「村長と話し合う日」を設け、住民と村長が直接話し合う機

会を定期的につくっています。村のホームページや広報、有線告知放送、CATV文字放送などを活用し行政からタイムリーな情報公開を行っています。また各種計画等を策定する際は、ワークショップなどを開催して住民の意見を取り入れ、住民と行政がともに考える村づくりを推進しています。

村内各地区において高齢者だけの世帯や障がい者、日中子供だけになる家庭などの情報を地図にまとめた「住民支え合いマップ」を作成し、地域住民が協力して福祉や災害時に備える取り組みを行っています。

また住民同士が協力し合い、家事や育児など援助が必要な時に低額有料で助け合う「原村ねこの手サービス」が活発に活動しています。

このように住民と行政が協働し、住民同士の絆を深め、みんなが主役になる村づくりを進めています。



[Local Government Administration]

Making the Most Out of the Beautiful Scenery and People's Voices in Village Planning

Planning for a Beautiful Village

The natural environment on the foothills of the Yatsugatake Mountains and the beautiful views of a rural village are Haramura's precious treasures.

It is necessary to protect and foster the traditional cultures of Haramura and actively market Haramura with aspirations to turn it into an eco-village.

The residents and the administration will join forces to build the "Haramura" brand image.

A Village Where Everybody Plays a Leading Role

Village planning is a consortium where both the administration and the residents are the main constituents.

In Haramura, we have on-going projects such as "Oraho's Village Development Project," where the local residents work on community development, and "Provisional Programs for Construction Materials and Other Resources," which conduct maintenance and repair work on roads and watercourses.

Further, we have arranged a "Talk-to-the-Mayor Day," as an opportunity for the residents and the mayor to directly talk to each other in person.

資料編

38 原村の主な出来事

40 人口

42 産業

44 教育・福祉

46 健康・行政

48 会計・議会

50 原村のあゆみ

彫絵／日達 れんげ

1963年長野県岡谷市出身。

東京松本英語専門学校在学中に切り絵と出会う。1996年、長野日報紙「花風土記」連載開始。1998年長野日報紙「れんげのほのぼの日記」連載開始。NHKテレビ「おしゃれ工房」講師。2000年アメリカミシガン州きりえ展開催。2002年イタリア、ヴェネツィアより日伊芸術貢献作家認定。2003年より原村に移り住み、切り絵ギャラリー「れんげ草」をオープン。



原村の主な出来事

平成20年〔2008〕↓平成27年〔2015〕

■平成20年〔2008〕

- 1月 病児保育開始
- 1月 原小学校特別教室棟改築完成
- 2月 県営ほ場整備事業西部地区菖蒲沢工区竣工記念碑除幕式
- 3月 森の里親事業変更契約調印式
- 4月 県営圃場整備事業西部地区柏木工区竣工記念碑除幕式
- 4月 資源物の分別収集はじまる
- 5月 茅野警察署原村警察官駐在所落成式
- 7月 農業委員会委員選挙(無投票)
- 9月 中新田公民館増築および鎮守社建替え工事竣工式
- 9月 原山自治会集会所開所式
- 10月 八ヶ岳中央農業実践大学校創立70周年記念式典

■平成21年〔2009〕

- 1月 県営ほ場整備事業竣工記念式典(原村西部地区)
- 4月 保育所未満児棟地鎮祭
- 4月 中新田区創立40周年記念式典
- 6月 原中学校給食棟地震補強・内部改修工事
- 6月 判之木区発足50周年記念式典
- 8月 中央公民館耐震補強・トイレ他改修工事始まる
- 8月 衆議院議員選挙(政権交代)
- 10月 役場庁舎耐震改修工事始まる
- 10月 J・O・M・Oあゆみの森第2期森林の里親契約調印式
- 10月 原村早起き野球連盟40周年記念式典
- 11月 公共交通あり方地域住民懇談会(5会場)
- 12月 エコライン開通式

■平成22年〔2010〕

- 1月 保育所未満児棟完成
- 4月 可燃ごみ処理方法、分別方法変更
- 4月 学校給食に米粉パンの提供始まる
- 4月 観光圏整備法に基づいて八ヶ岳観光圏が認定される
- 7月 婚活支援事業始まる
- 7月 民生児童委員協議会が保育所保護者会へ寄附(アルミ缶リサイクル活動)
- 8月 星空の映画祭 4年ぶりに復活
- 10月 公共交通セロリン号・六山原村線 実証運行開始
- 10月 津金雀仙自詠詩碑除幕式
- 11月 大イルミネーションリニューアル
- 12月 民生児童委員協議会が中学校へAED寄贈(アルミ缶リサイクル活動)
- 12月 原小学校児童クラブ新築

■平成23年〔2011〕

- 2月 日本建築家協会25年賞受賞(八ヶ岳美術館)
- 2月 災害時における飲料水供給等の協力に関する協定契約
- 3月 東日本大震災、長野県北部地震被災地へ救援物資を搬送
- 4月 医師派遣に関する覚書調印式(諏訪中央病院から原村診療所へ医師2名派遣)
- 4月 原村議会議員選挙(無投票)
- 5月 宮城県南三陸町 短期リフレッシュ事業(8回)
- 6月 図書館 貸出150万冊達成
- 7月 村長選挙 清水澄四選
- 7月 農業委員会委員選挙(無投票)
- 7月 サラダチャンネルデザイン変換
- 12月 八ヶ岳美術館清水多嘉示の作品を新たに収蔵

■平成24年〔2012〕

- 4月 有志の方々が宮城県南三陸町を訪問
- 4月 原村観光連盟設立
- 5月 金環日食(173年ぶり)
- 5月 「原村ねこの手サービス」発足
- 5月 原中学校大規模改修工事始まる
- 7月 宮城県南三陸町他短期リフレッシュ事業(3回)
- 8月 諏訪大社下社お舟祭り担当
- 12月 新エネ・省エネ推進委員会発足
- 12月 衆議院議員選挙(政権交代)

■平成25年〔2013〕

- 1月 暴力団排除に向けた取り組み合意書締結
- 2月 電気自動車用充電設備開所式
- 3月 原村消防団消防庁長官表彰旗受賞
- 3月 サラダチャンネル動画番組終了
- 8月 デジタル簡易無線機を各地区へ配備
- 8月 原村総合計画審議会行政評価制度の試行
- 8月 電気自動車購入
- 9月 宮城県南三陸町他短期リフレッシュ事業(2回)
- 10月 公共交通セロリン号・六山原村線 本運行開始

■平成26年〔2014〕

- 2月 13年ぶりの記録的な大雪、積雪110cm(消防署調べ)
- 農業施設に大きな被害が出る(被害額8億8千万円)
- 9月 木曾御嶽山噴火
- 9月 宮城県南三陸町 短期リフレッシュ事業
- 10月 あゆみの森里親事業10周年記念植樹
- 11月 長野県北部神城断層地震

■平成27年〔2015〕

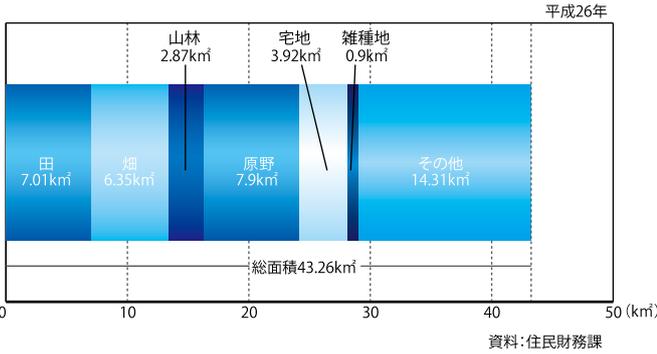
- 2月 保育所給食棟完成
- 3月 上水道第5水源完成

位置 |

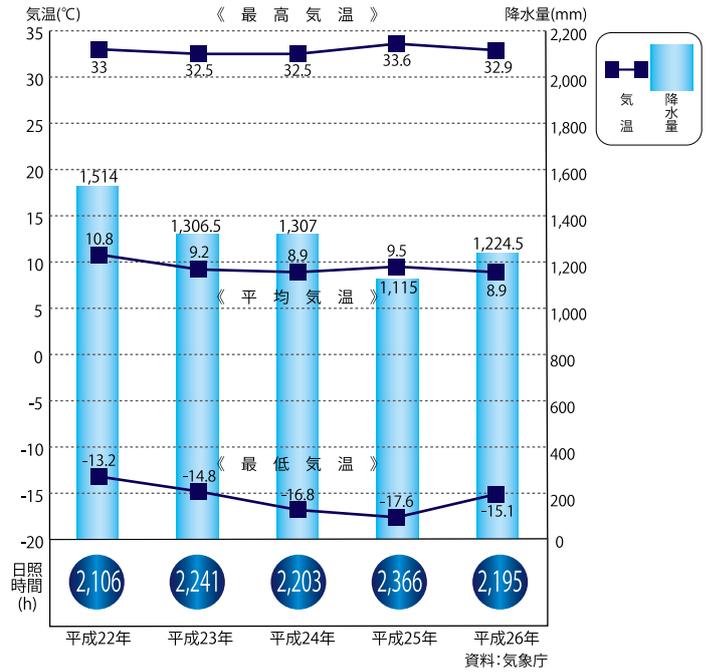
東 経 138°13'13"
 北 緯 35°57'40"
 面 積 43.26 km²
 東 西 16.2 km
 南 北 5.9 km

資料: 図測

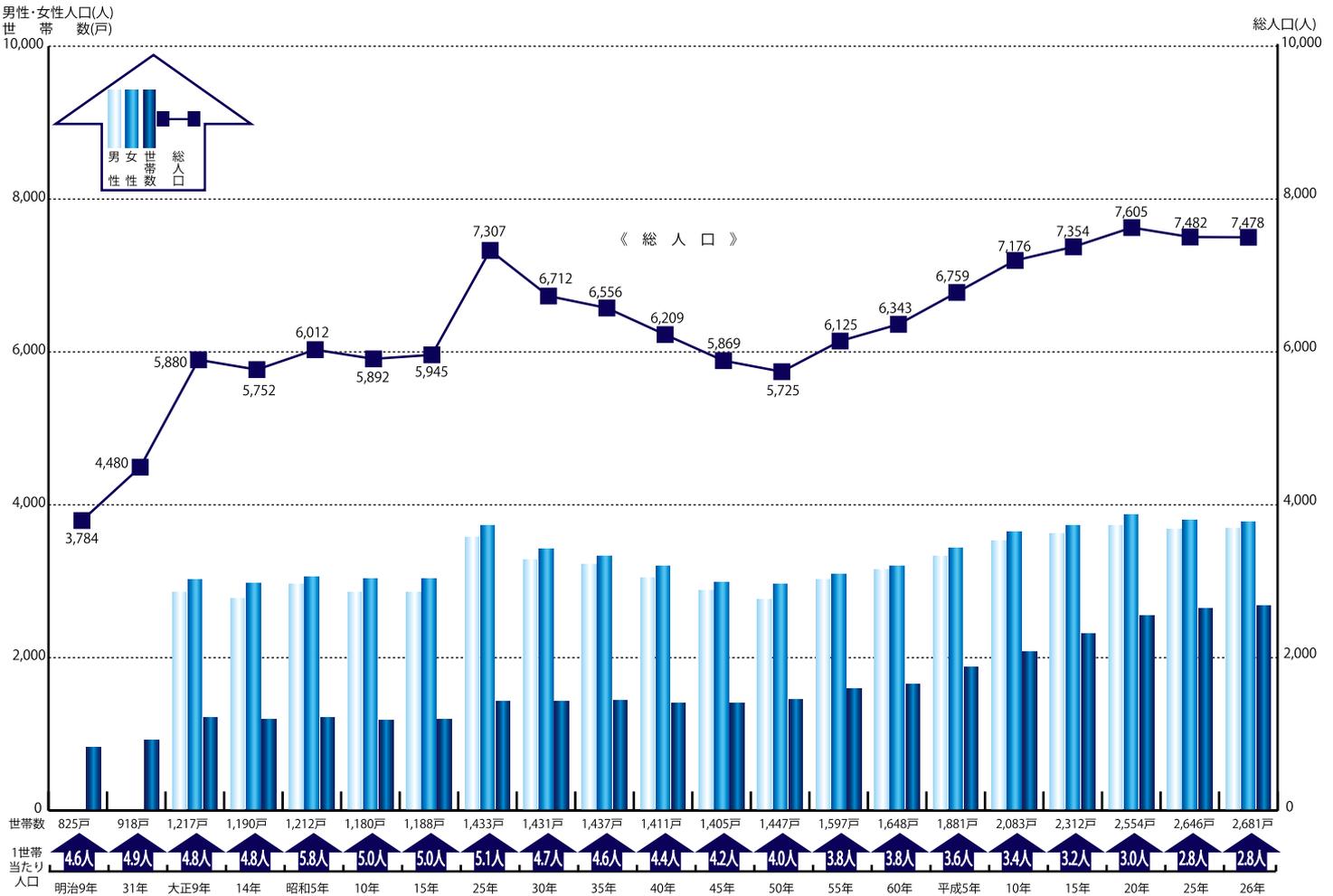
課税地目別面積 |



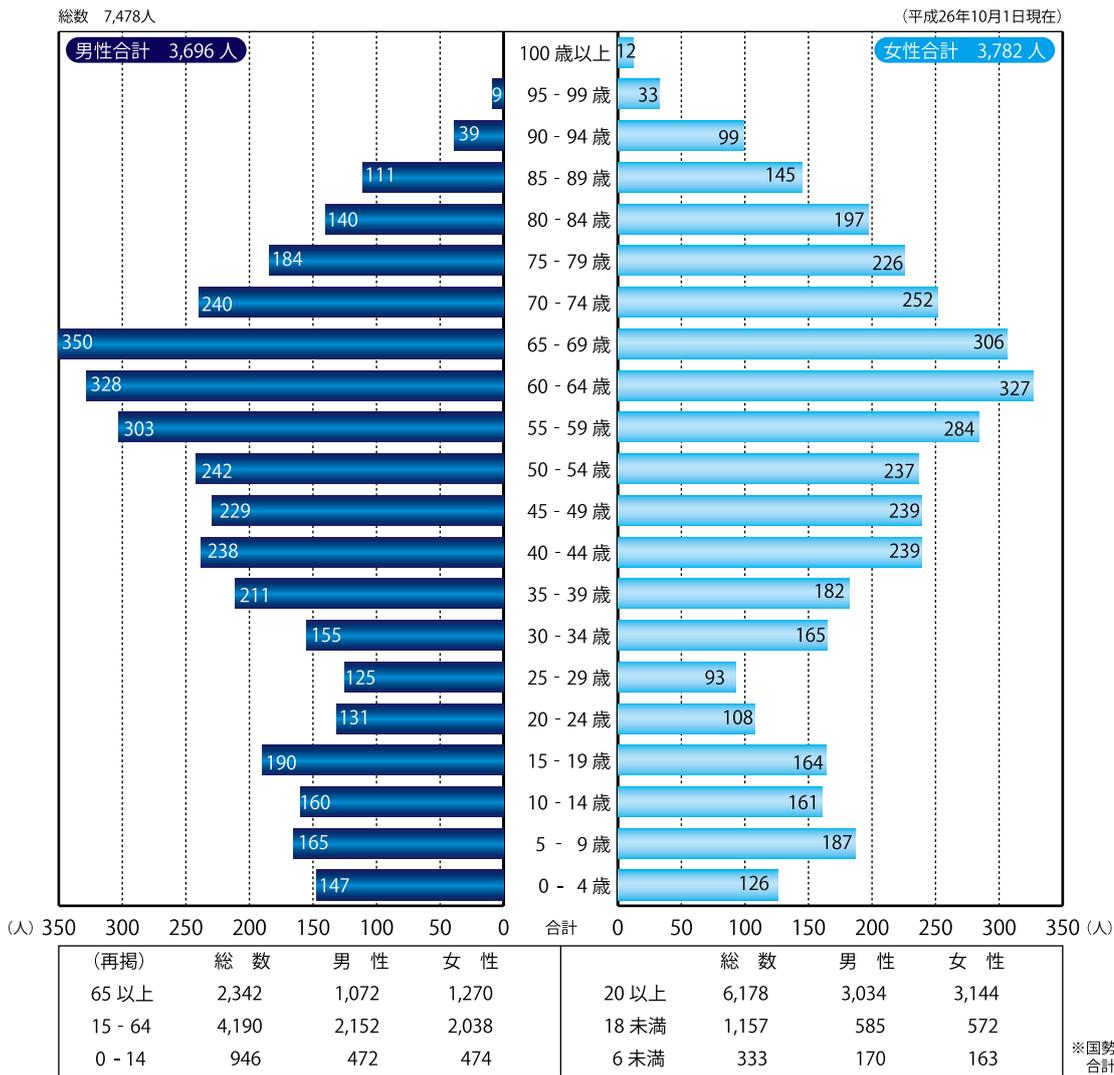
気象概況 |



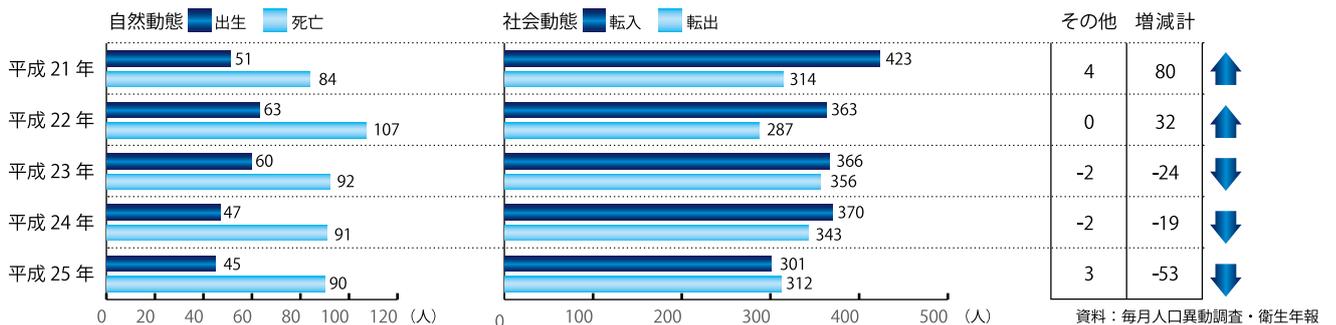
人口世帯数の推移 |



年齢(5歳階級)別・男女別人口 |



人口動態の推移 |



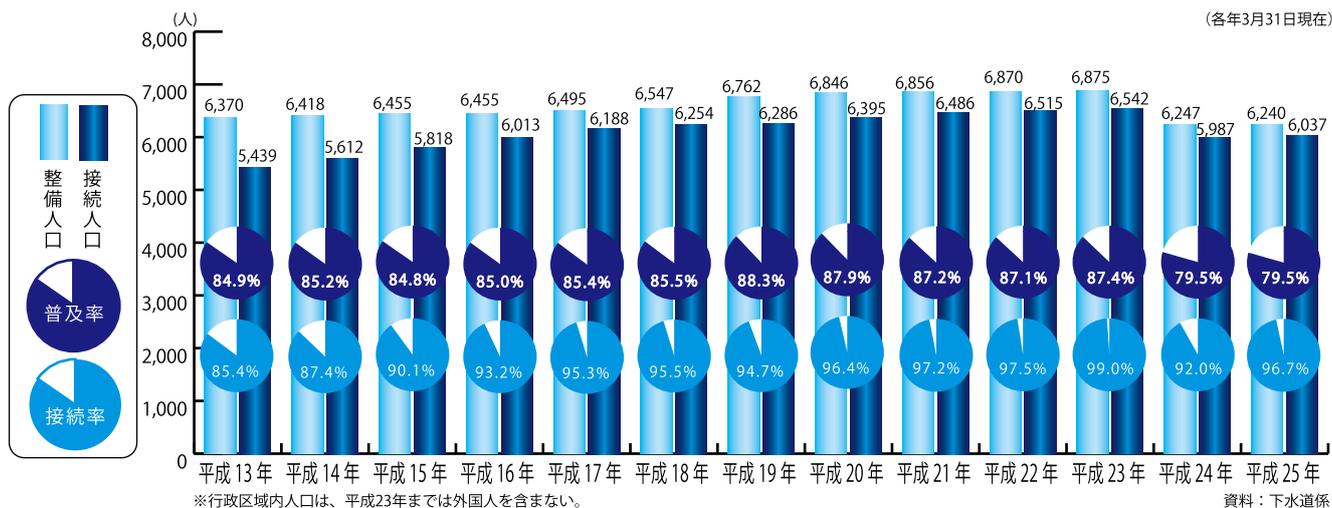
道路台帳村道の現況 |

(平成26年3月31日現在)

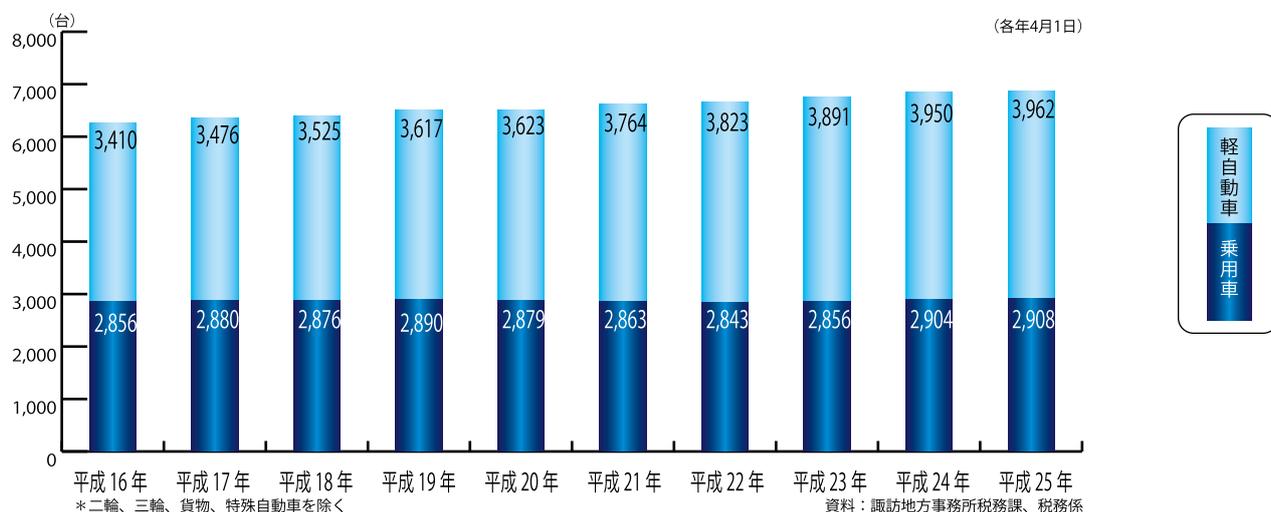
道路種別	総延長(m)	実延長(m)	道路種別率(%)	改良未改良延長			橋梁				路面別内訳				
				規格改良		未改良	延長(m)	箇所数	内永久橋		砂利道(m)	舗装道路			
				延長(m)	整備率(%)	延長(m)			延長(m)	箇所数		セメント系(m)	アスファルト系(m)	計(m)	率(%)
1級村道	12,862	12,789	2.8	12,727	99.5	62	61	9	61	9	0	76	12,713	12,789	100.0
2級村道	33,475	33,281	7.3	32,148	96.6	1,133	127	16	127	16	1,078	6	32,197	32,203	96.8
その他村道	411,508	408,826	89.9	206,436	50.5	202,390	833	111	815	108	209,370	965	198,491	199,456	48.8
計	457,845	454,896	100.0	251,311	55.2	203,585	1021	136	1003	133	210,448	1,047	243,401	244,448	53.7

資料：建設係

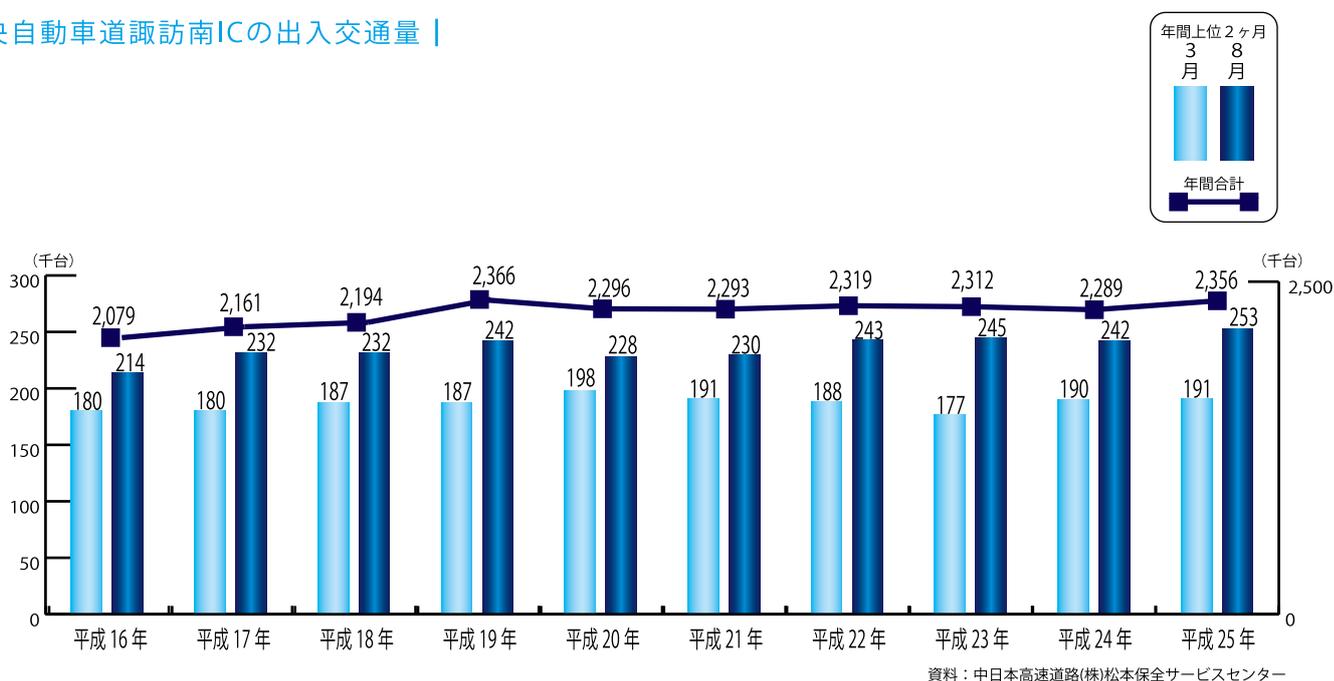
原村特定環境保全公共下水道の推移 |



自動車保有台数(非課税車は除く) |



中央自動車道諏訪南ICの出入交通量 |



建築関係届出・確認申請件数 |

(単位: 件)

	工事届					
	20年	21年	22年	23年	24年	25年
住宅	59(1)	55(10)	43(6)	52(8)	57(2)	63(7)
別荘	21(1)	14	11(4)	14(3)	18(1)	19(2)
車庫・物置	4	5(3)	5(1)	2(1)	5(3)	3(2)
農業用施設	2	2	3	2	2	2
店舗・工場		2	1	2		
宿泊施設						1
公共施設		2(2)		1(1)		
併用住宅	2		1		1(1)	
その他	2	1	7(2)		7(3)	3(1)
計	90(2)	81(15)	71(13)	73(13)	90(10)	91(12)

※ () 内増築

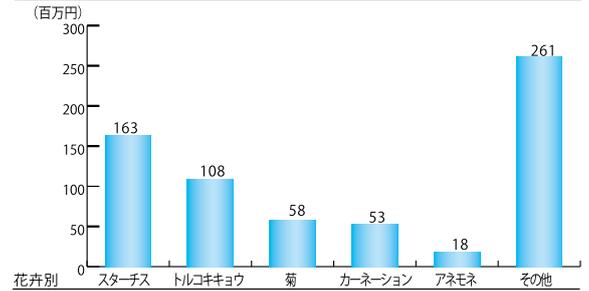
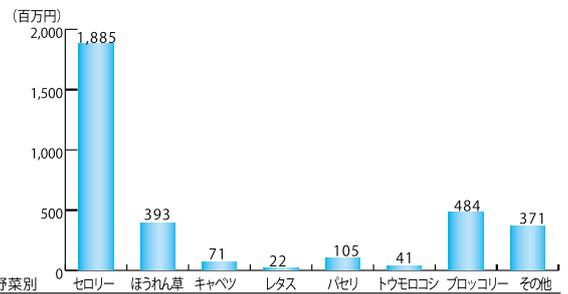
(単位: 件)

	確認申請					
	20年	21年	22年	23年	24年	25年
住宅	3	2(1)	1	1(1)	2	4(1)
別荘						
車庫・物置	1					
農業用施設						
店舗・工場	2		1	1		
宿泊施設						
公共施設	2	1(1)	1	1(1)		
併用住宅	1					
その他	2	1	3(2)		4(1)	2
計	11	4(2)	6(2)	3(2)	6(1)	6(1)

※ () 内増築

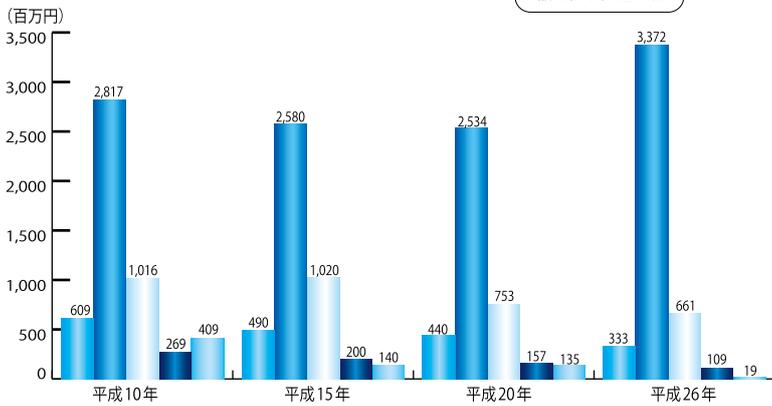
資料: 環境係

農業粗生産額 平成26年度 |

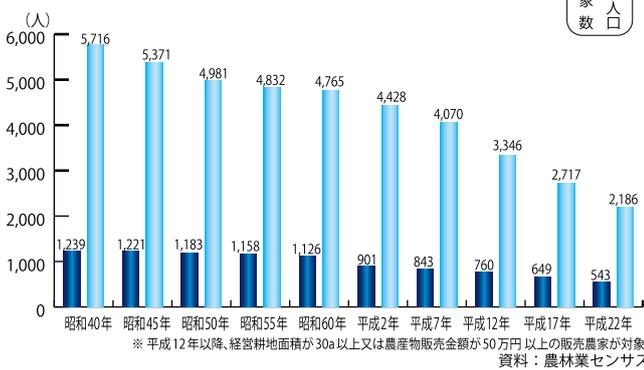


資料: 原村農業技術者連絡協議会

農業産出額の推移 |

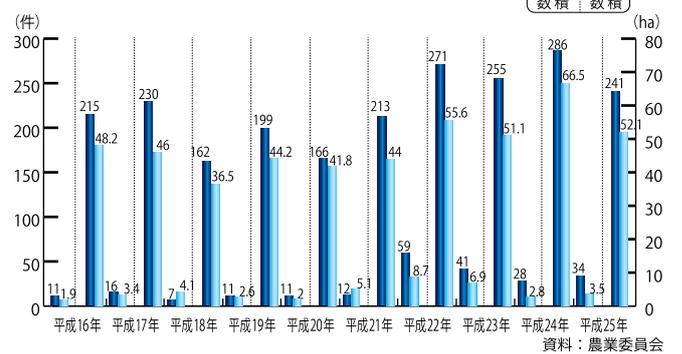


農家数と農家人口の推移 |



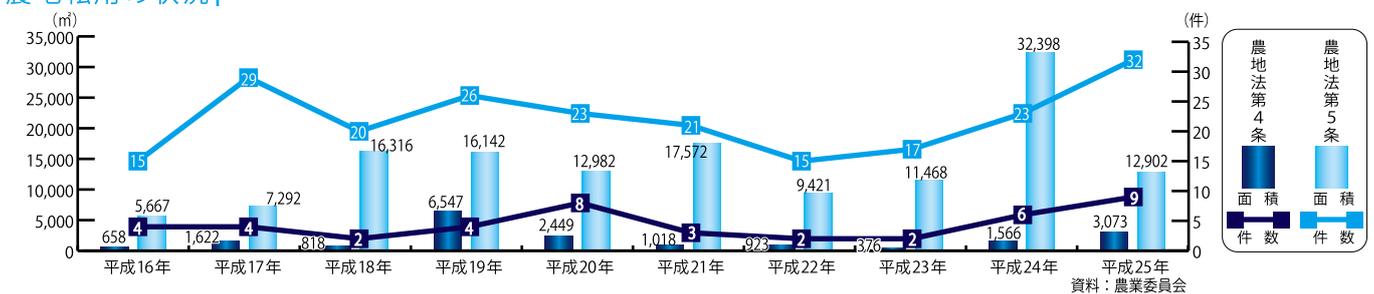
※ 平成12年以降、経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の販売農家が対象。資料: 農林業センサス

農地流動化実績 |



資料: 農業委員会

農地転用の状況 |



資料: 農業委員会

ほ場整備の状況 |

事業名	地区名	実施年度	事業費 ※1 (百万)	面積 ※2 (ヘクタール)	畑かん 整備面積 (ヘクタール)
団体営畑地帯総合土地改良事業	番飼場	昭和50年～52年	151	35	35
団体営土地改良総合整備事業	大久保	昭和54年～57年	157	19	11
県営ほ場整備事業	弓振	昭和55年～平成5年	3,156	217	48
県営畑地帯総合土地改良事業	御射山	昭和59年～平成5年	3,608	196	100
県営ほ場整備事業	丸山	昭和63年～平成7年	388	27	-
構造政策推進モデル集落整備事業運輸通信業	菖蒲沢	平成元年～平成元年	36	4	-
県営ほ場整備事業	恩前	平成3年～9年	1,280	80	-
県営ほ場整備事業(21世紀型)	西部	平成5年～13年	2,209	105	-
県営ほ場整備事業(担い手育成型)	弘沢	平成6年～14年	1,824	109	-
県営ほ場整備事業(担い手育成型)	深山	平成6年～16年	3,379	153	70
県営ほ場整備事業(担い手育成型)	柏木	平成13年～19年	863	31	-
計	11地区		17,051	976	264

※1 原村分の事業費
※2 原村分の面積

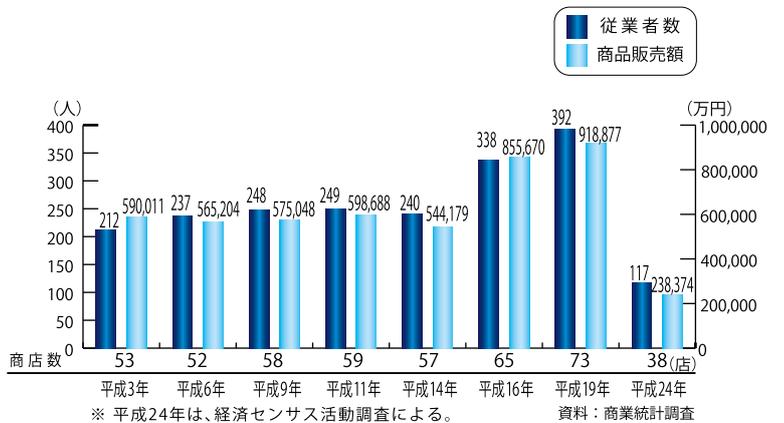
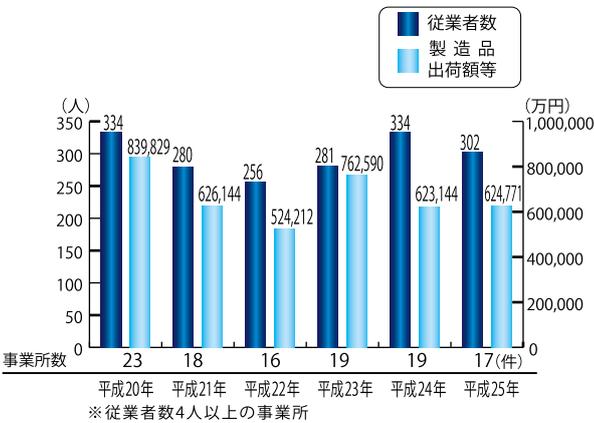
原村の全体農地
1,162ヘクタール
ほ場整備事業による整備面積
976ヘクタール
整備率 84%
(畑地灌漑施設整備率50.4%
畑面積524ヘクタール
畑灌漑整備264ヘクタール)
(※事業地区が原村内だけ
ではないため、事業費は面積
により原村分を算出。)

資料：農村整備係

工業の推移 |

(各年12月31日現在)

商業の推移 |



産業別事業所数と従業員数 |

(単位：事業所、人)

産業分類	昭和53年		昭和56年		昭和61年		平成3年		平成8年		平成13年	
	事業所数	従業員	事業所数	従業員	事業所数	従業員	事業所数	従業員	事業所数	従業員	事業所数	従業員
総数	269	1,273	328	1,514	357	1,642	351	1,797	389	2,425	401	2,578
農・林・漁業	2	x	2	x	1	x	3	30	1	x	1	x
鉱業	0	0	0	0	0	0	1	x	0	0	0	0
建設業	45	170	48	171	61	220	64	211	69	260	68	289
製造業	53	421	54	450	55	572	50	620	51	738	48	577
電気・ガス・熱・供給・水道業	1	x	1	x	2	x	2	x	2	x	2	x
運輸通信業	4	60	3	65	2	x	1	x	3	34	6	67
卸・小売業・飲食業	57	182	67	237	77	242	73	326	82	388	90	523
金融・保険業	2	x	2	x	1	x	1	x	2	x	3	11
不動産業	0	0	3	4	4	9	6	36	6	23	8	38
サービス業	99	(376)	142	(507)	148	(501)	144	(492)	166	(845)	168	921
公務(他に分類されないもの)	6	64	6	80	6	98	6	82	7	137	7	115

産業分類	平成18年	
	事業所数	従業員
総数	478	2,465
農・林・漁業	4	45
鉱業	0	0
建設業	94	306
製造業	62	425
電気・ガス・熱・供給・水道業	1	x
運輸通信業	2	x
運輸業	8	84
卸・小売業	72	392
金融・保険業	3	x
不動産業	8	30
飲食店・宿泊業	113	336
医療・福祉	16	199
教育・学習支援業	21	134
複合サービス事業	5	44
サービス業(他に分類されないもの)	63	370
公務	6	82

※xの数値は総数から除外する場合と他産業に合算して()を付してある場合とがある。

資料：事業所・企業統計調査

産業分類	平成21年		平成24年	
	事業所数	従業員	事業所数	従業員
総数	476	2,414	425	2,048
農・林・漁業	6	37	5	54
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0
建設業	89	308	89	289
製造業	59	438	61	395
電気・ガス・熱・供給・水道業	1	4	0	0
情報通信業	8	19	7	17
運輸通信業	10	101	9	98
運輸業・郵便業	67	390	51	305
卸・小売業	1	8	1	10
金融・保険業	15	50	15	44
不動産業・物品賃貸業	25	82	23	56
学術研究・専門・技術サービス業	112	358	101	335
生活関連サービス業・娯楽業	14	19	10	15
医療・福祉	22	132	13	48
教育・学習支援業	19	215	16	201
複合サービス事業	4	34	4	27
サービス業(他に分類されないもの)	18	144	20	154
公務(他に分類されるものを除く)	6	75	0	0

資料：平成21年 経済センサス基礎調査 平成24年 経済センサス活動調査

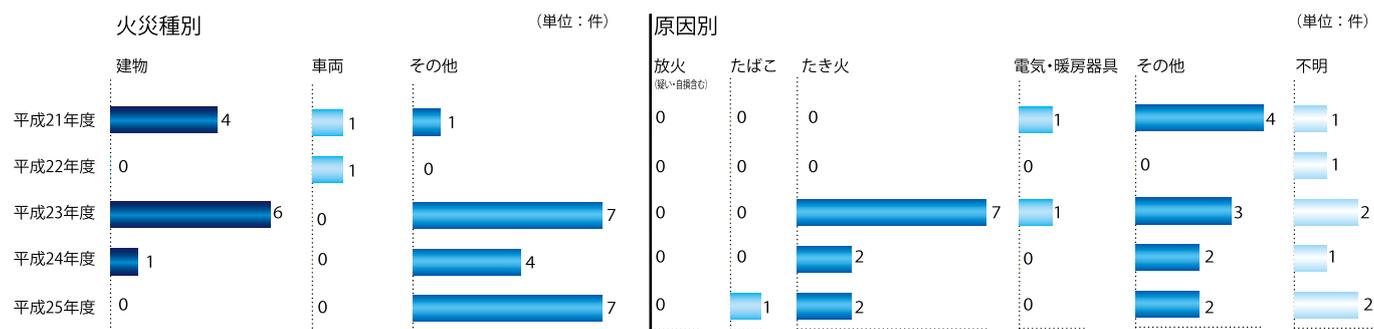
産業(中分類)工業規模の推移 |

産業別(中分類)	平成9年			平成13年			平成17年			平成21年			平成25年		
	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額
総数	47	843	2,397,833	15	411	1,659,328	20	307	759,436	18	280	626,144	17	302	624,771
食料	1	x	x	1	x	x	1	8	x	1	8	x	1	7	x
飲料	-	-	-	-	-	-	1	16	x	1	10	x	-	-	-
繊維	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
衣服	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木材	2	x	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家具	5	18	21,135	1	x	x	1	4	x	1	4	x	-	-	-
紙	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
印刷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
科学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石油	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プラスチック	3	50	230,402	1	x	x	1	73	x	1	78	x	1	76	x
ゴム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮革	-	-	-	-	-	-	1	9	x	1	5	x	-	-	-
土石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鉄鋼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
非鉄	1	x	x	1	x	x	1	15	x	-	-	-	1	5	x
金属	9	40	37,366	3	x	x	5	58	112,240	5	61	107,071	4	48	111,691
機械	10	82	378,325	4	46	113,366	3	39	68,595	4	44	x	6	92	69,723
電気	10	412	1,276,089	3	x	x	1	11	x	-	-	-	-	-	-
情報	-	x	x	-	-	-	2	30	x	2	21	x	3	25	48,892
電子	-	x	x	-	-	-	1	4	x	-	-	-	-	-	-
輸送	1	x	x	-	-	-	1	4	x	1	4	x	-	-	-
精密	3	7	5,153	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	2	x	x	1	x	x	1	36	x	1	45	x	1	49	x

※従業者数4人以上の事業所

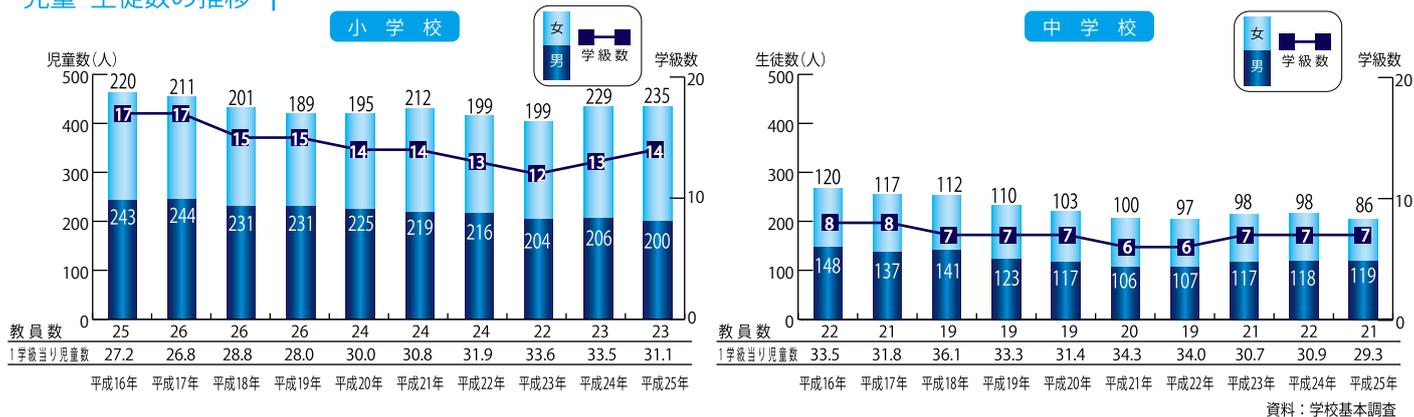
資料：工業統計調査

火災発生状況 |



資料：諏訪広域消防本部

児童・生徒数の推移 |



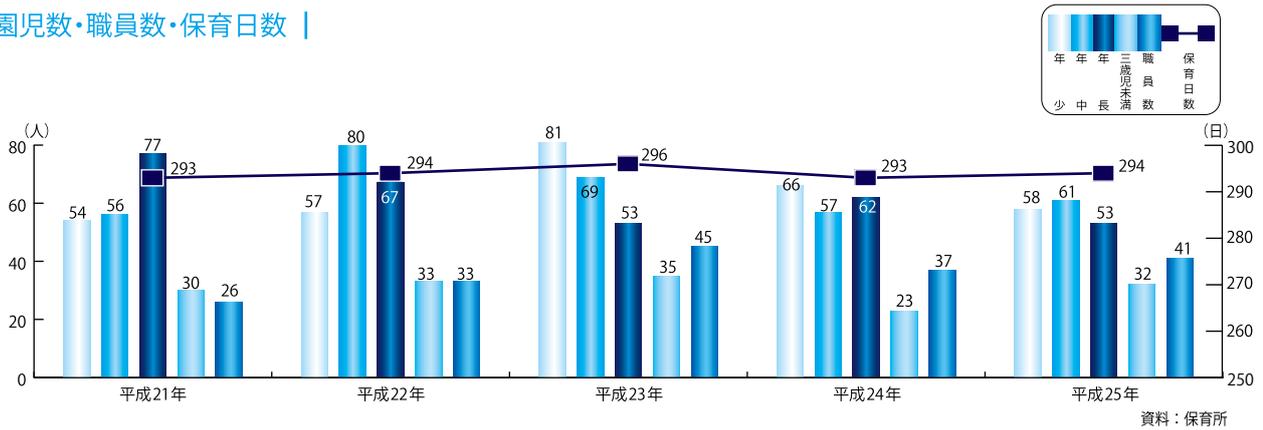
資料：学校基本調査

中学校卒業者の進路状況 |

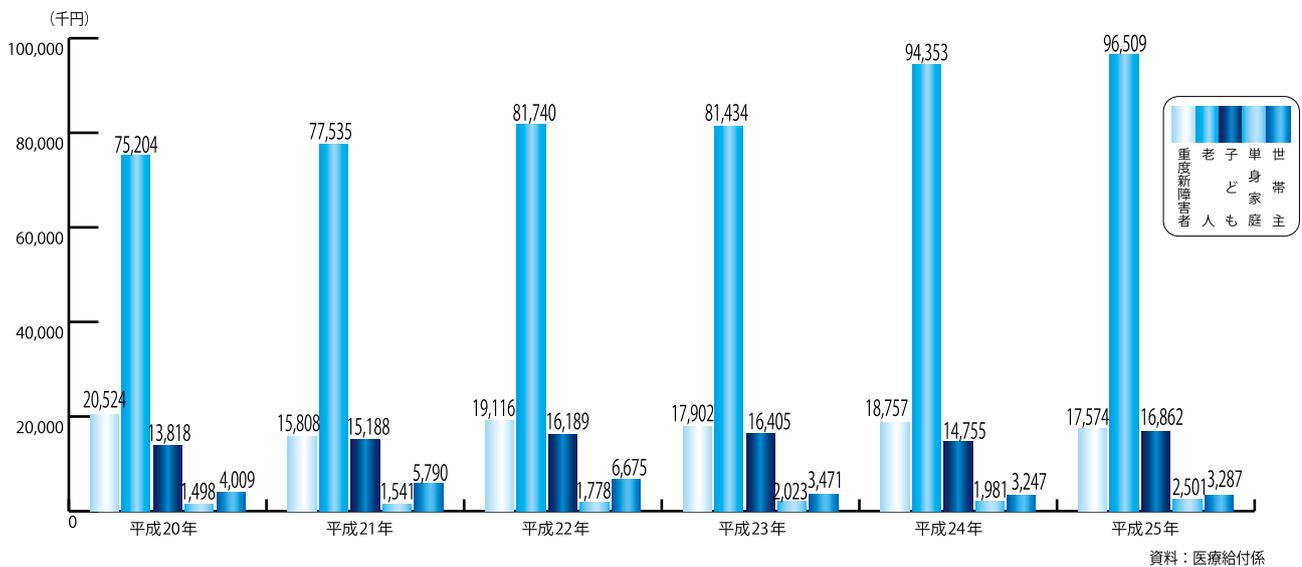
年	卒業者数			A進学者(就職進学者含む)			B専修学校等入学者			就職者(左記ABを除く)			その他
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
平成16年	47	36	83	45	36	81	-	-	-	-	-	-	2
平成17年	52	44	96	52	43	95	-	-	-	-	-	-	1
平成18年	40	37	77	39	37	76	-	-	-	-	-	-	1
平成19年	55	40	95	55	40	95	-	-	-	-	-	-	-
平成20年	42	41	83	42	40	82	-	-	-	-	-	-	1
平成21年	47	32	79	46	32	78	-	-	-	-	-	-	1
平成22年	36	38	74	36	38	74	-	-	-	-	-	-	-
平成23年	37	33	70	36	32	68	1	-	1	-	1	1	-
平成24年	30	30	60	29	30	59	-	-	-	-	-	-	1
平成25年	41	33	74	39	33	72	-	-	-	1	-	1	1

資料：学校基本調査

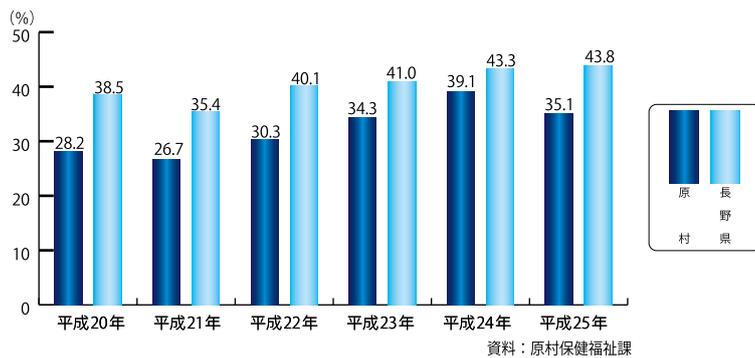
園児数・職員数・保育日数 |



国民健康保険給付の推移 |



原村特定健診受診率 |



医療従事者数・医療施設数 |

(単位：人)

年	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	准看護師	保健師	助産師	病院		診療所	
								公的	その他	一般	歯科
平成16年	2	2	5	14	4	4	-	-	4	2	
平成17年	2	2	5	14	4	4	-	-	4	2	
平成18年	4	2	3	22	8	5	-	-	4	2	
平成19年	4	2	3	13	7	5	-	-	4	2	
平成20年	4	2	3	13	7	5	-	-	4	2	
平成21年	3	2	2	19	9	5	-	-	4	2	
平成22年	3	2	2	19	9	5	-	-	4	2	
平成23年	4	2	4	18	9	7	-	-	5	2	
平成24年	4	2	4	18	9	7	-	-	5	2	

※医師・歯科医師・薬剤師は無職の者を含む総数
看護師・准看護師・保健師・助産師は業務従事者数
いずれもH24.12.31現在
医療施設数はH24年10月1日現在

資料：長野県健康福祉部健康福祉政策課

死因別死亡者数(概算) |

問題別相談・指導	年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
結核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
悪性新生物	18	19	20	29	24	33	25	35	28	27	
糖尿病	1	2	1	-	1	1	2	-	1	1	
高血圧性疾患	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
心疾患	6	7	10	6	13	14	9	16	13	11	
脳血管疾患	9	17	19	12	12	14	9	13	10	12	
大動脈瘤及び解離	2	2	1	1	1	2	2	4	1	1	
肺炎	4	5	6	2	3	8	7	8	5	4	
慢性閉塞性肺疾患	-	2	-	3	1	4	1	4	-	1	
喘息	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	
肝疾患	-	1	1	1	2	1	-	-	1	2	
腎不全	-	-	1	2	3	1	-	4	1	1	
老衰	6	2	1	5	4	4	1	5	5	4	
不慮の事故	4	4	2	4	2	3	5	6	5	2	
自殺	3	3	3	3	-	3	1	1	2	1	
小計	53	64	65	68	67	89	63	96	73	67	
その他の死亡	10	14	9	15	15	13	16	12	21	23	
合計	63	78	74	83	82	102	79	108	94	90	

※住民登録に関係なく、原村に届け出のあった件数。

資料：諏訪保健福祉事務所

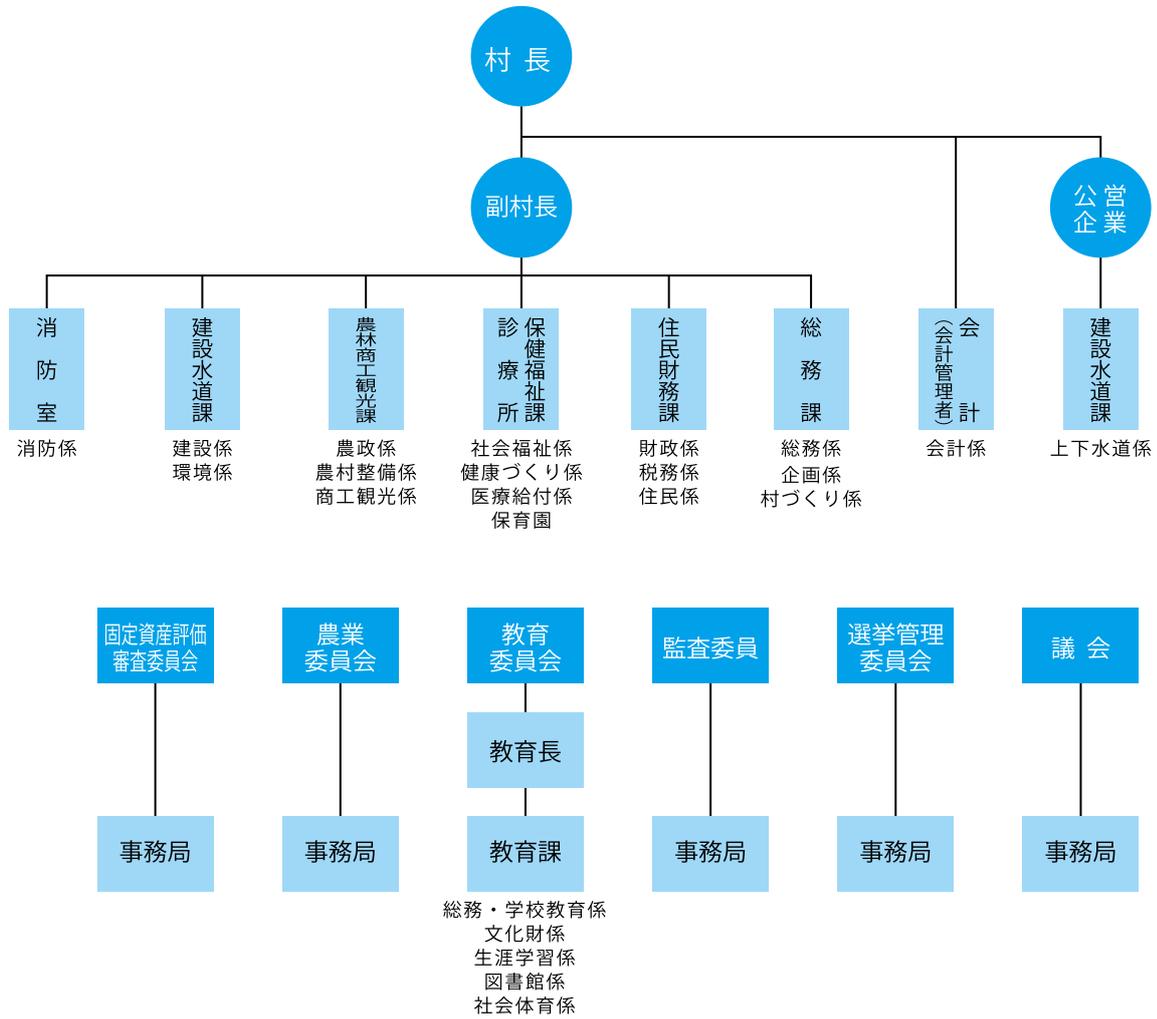
医療費特別給付金制度の経過 |

対象者	施行日	概要
高齢者	昭和46年4月1日	75歳以上
	昭和47年4月1日	70歳以上
	昭和48年4月1日	68歳以上
	昭和48年10月1日	65歳以上 68歳未満寝たきり老人等
	昭和49年4月1日	67歳以上
	昭和50年10月1日	65歳以上独り暮らし老人 重度障害者を扶養している老人
	昭和56年4月1日	65歳以上
	平成6年10月1日	入院時食事療養費給付対象
子ども	平成18年4月1日	入院時食事療養費給付対象外
	昭和47年4月1日	1歳未満
	昭和48年4月1日	3歳未満
	昭和56年4月1日	4歳未満
	平成6年10月1日	入院時食事療養費給付対象
	平成10年4月1日	6歳未満
	平成14年4月1日	満9歳に達した日以後最初の3月31日まで
	平成18年4月1日	入院時食事療養費給付対象外 満15歳に達した日以後最初の3月31日まで
障害者	平成24年4月1日	満18歳に達した日以後最初の3月31日まで
	昭和48年4月1日	福祉年金該当者、要常時看護・介護者
	昭和51年4月1日	20歳以上身障手帳1級該当児
	昭和54年4月1日	身障手帳3級以上該当者、療育手帳B1以上該当者
	平成6年10月1日	特別児童扶養手当1級該当者、20歳以上身障手帳4級該当、要常時介護者、入院時食事療養費給付対象
	平成8年4月1日	精神障害者保健福祉手帳2級以上該当者
	平成11年4月1日	難病、特定疾患、ウィルス肝炎対患者
	平成18年4月1日	入院時食事療養費給付対象外 更正医療受給者証所持者
単親家庭	平成20年8月1日	施設入所者の住所地特例者を前住所地市町村で対応
	平成24年4月1日	自立支援医療費 住民税課税世帯に属する者については、自立支援医療受給者証(精神通院)に表記された医療機関及び薬局での公費の対象となる医療費に限る
	昭和49年11月1日	児童激励金支給条例該当者、3歳以上18歳未満児童を現に扶養している母又は父
	昭和50年4月1日	50歳以上70歳未満の者で子がなく独り暮らし寡婦(重度障害者を扶養する者も準ずる)
世帯主	平成6年10月1日	母子及び寡婦福祉法該当者、18歳未満児童(学生20歳未満)を現に扶養している母又は父、入院時食事療養費給付対象
	平成18年4月1日	入院時食事療養費給付対象外
	平成24年4月1日	50歳以上65歳未満の方で母子及び寡婦福祉法第6条第3項で規定する寡婦で、同一住所内に子がいない者
	平成5年4月1日	高額療養費の支給対象となった者
世帯主	平成6年10月1日	入院時食事療養費給付対象 1ヶ月の医療費と食事療養費の合計金額が高額療養費の基準額を超えた者
	平成18年4月1日	入院時食事療養費給付対象外

※原村医療費特別給付金制度は病院、薬局等の窓口で支払った金額(保険適用外を除く)を役場に支給申請する事で、後日指定された口座にお支払いする制度。

行政機構図 |

(平成 27 年 4 月 1 日現在)



課等別職員数 |

(各年 4 月 1 日現在)

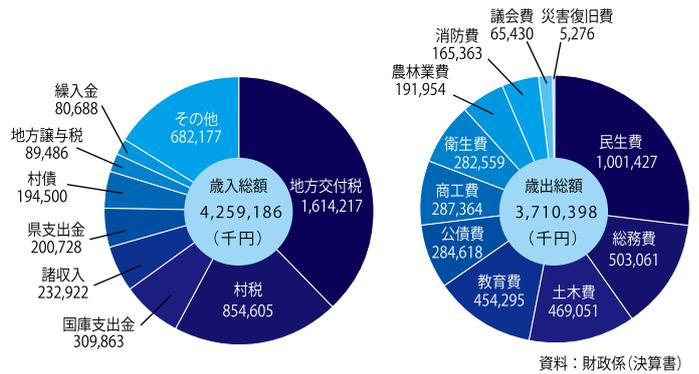
区 分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
総 務 課	9	8	8	9	12	13	14
村づくり戦略推進室	5	6	6	6			
住 民 財 務 課	12	12	11	11	11	11	13
保 健 福 祉 課	35	36	36	37	38	39	39
農 林 商 工 観 光 課	8	8	8	7	8	9	10
建 設 水 道 課	11	11	11	11	12	12	12
会 計 室	3	3	3	3	3	3	3
議 会 事 務 局	2	2	2	2	2	2	2
教 育 委 員 会	13	11	13	13	13	13	12
農 業 委 員 会	1	1	1	1	1	1	1
派遣 諏訪広域連合	19	19	19	19	19	19	2
派遣 社会福祉協議会	1	1	1	1	1	1	1
合 計	119	118	119	120	120	123	109

平成25年度会計別決算の状況 |

(単位：千円)

区分	歳入総額	歳出総額	差引
一般会計	4,259,186	3,710,398	548,788
有線放送会計	36,147	27,028	9,119
国保事業会計	1,063,121	940,600	122,521
国保直診会計	135,433	73,437	61,996
農業者労働災害共済会計	1,650	386	1,264
高齢高齢者医療会計	70,186	69,216	970

資料：財政係(決算書)



資料：財政係(決算書)

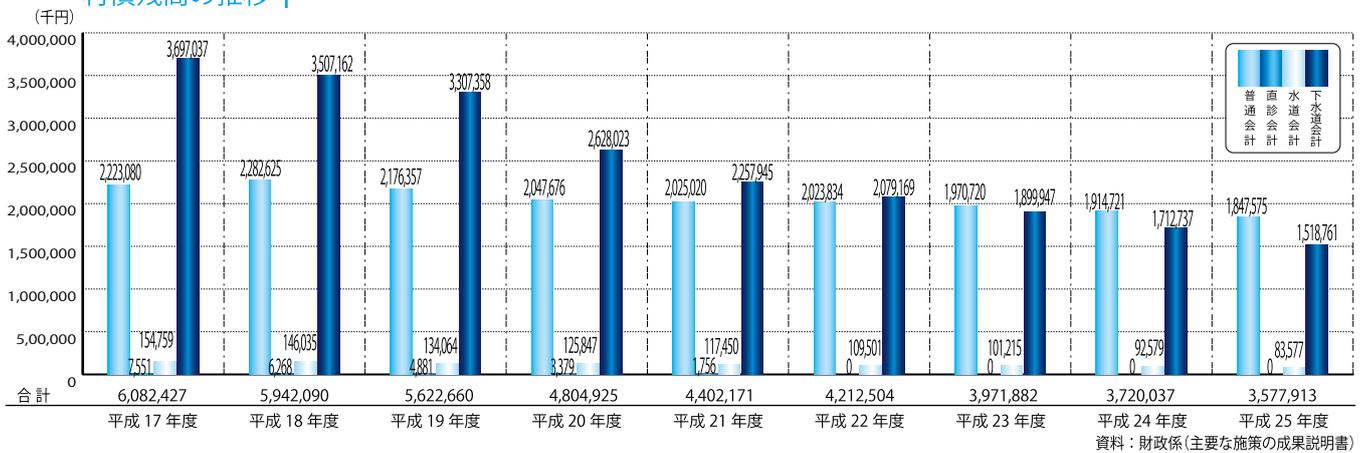
普通会計決算の状況 |

(単位：千円)

項目	平成25年度決算	平成24年度決算	
		原村	全国類似団体
収支	実質収支額	546,184	208,899
	実質収支比率(%)	20.5	5.7
	基金現在高	3,221,694	3,142,663
	地方債現在高	1,847,575	6,120,343
	経常収支比率(%)	75.0	80.9
財政構造	歳入総額	4,269,897	5,951,841
	歳出総額	3,710,726	5,689,550
	標準財政規模	2,660,637	3,696,318
	村税(住基人口1人当たり額)(円)	108,521	102,582
	人口1人当たり人件費の額(円)	92,576	133,934
	財力指数	0.370	0.24
	公債費負担比率(%)	8.5	17.1
	実質公債費比率(%)	6.2	10.8

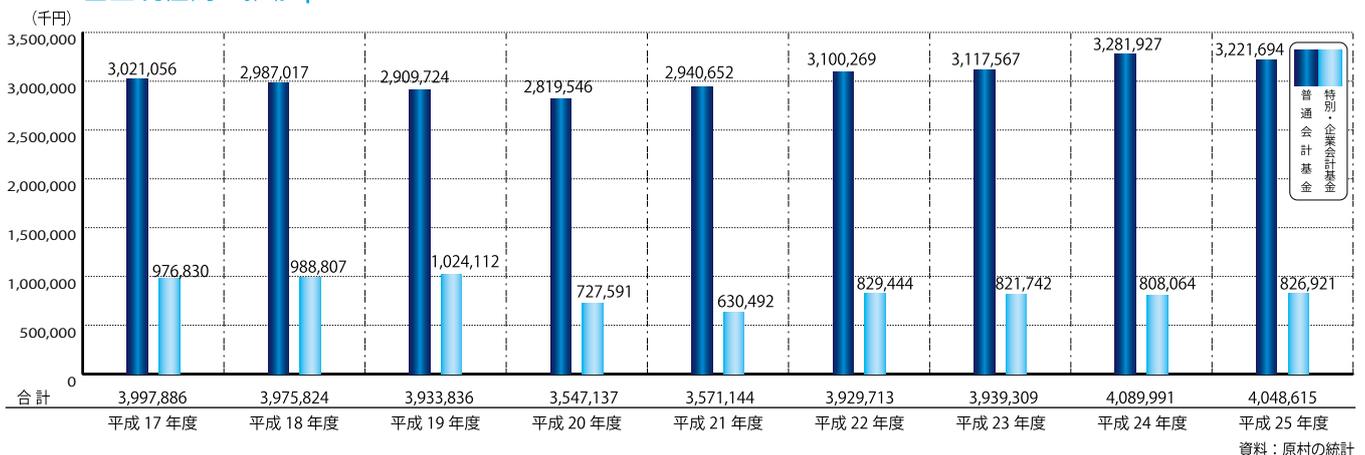
資料：財政係(主要な施策の成果説明書)

村債残高の推移 |



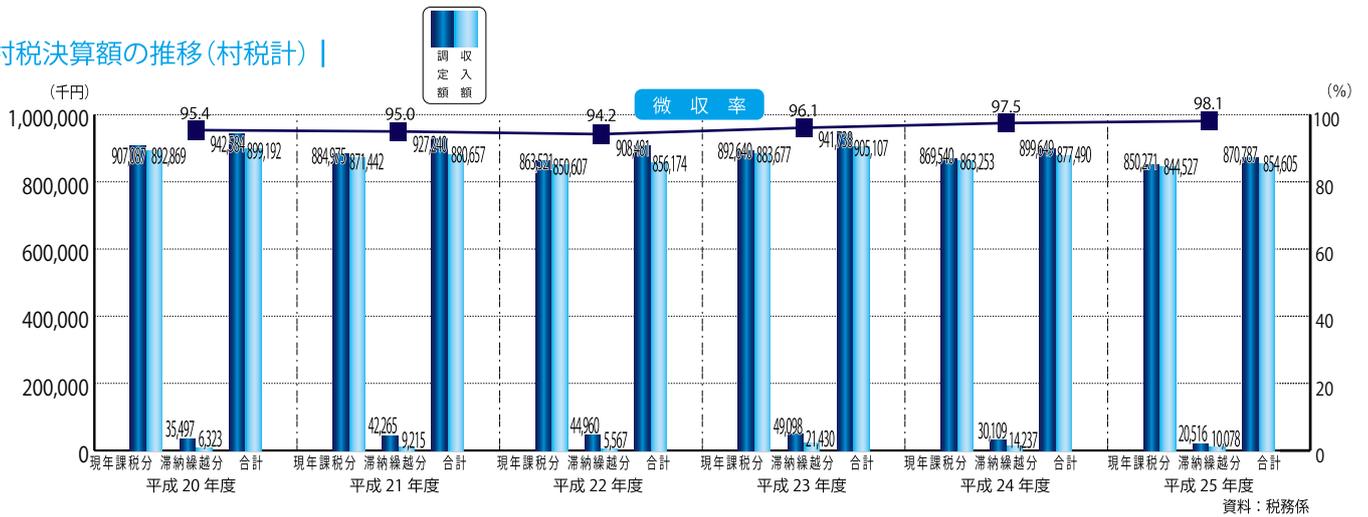
資料：財政係(主要な施策の成果説明書)

基金現在高の推移 |

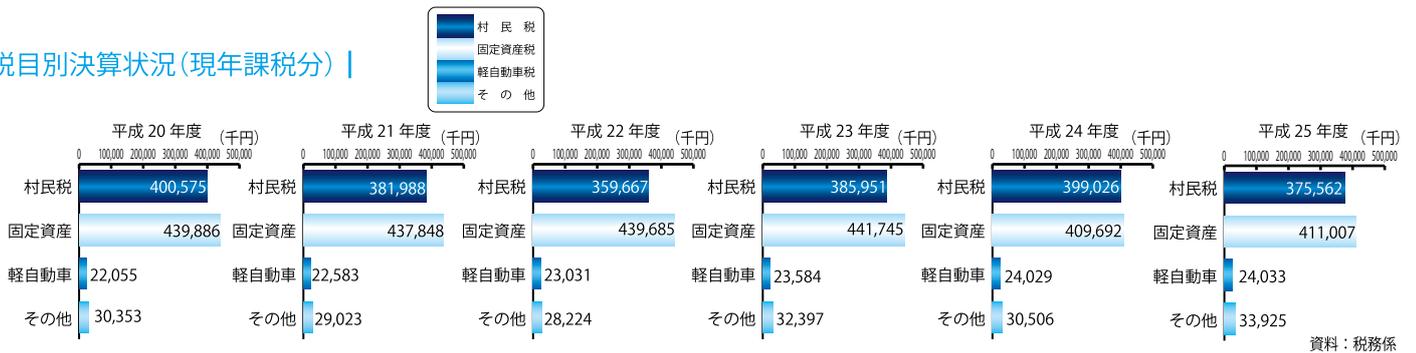


資料：原村の統計

村税決算額の推移(村税計)



税目別決算状況(現年課税分)



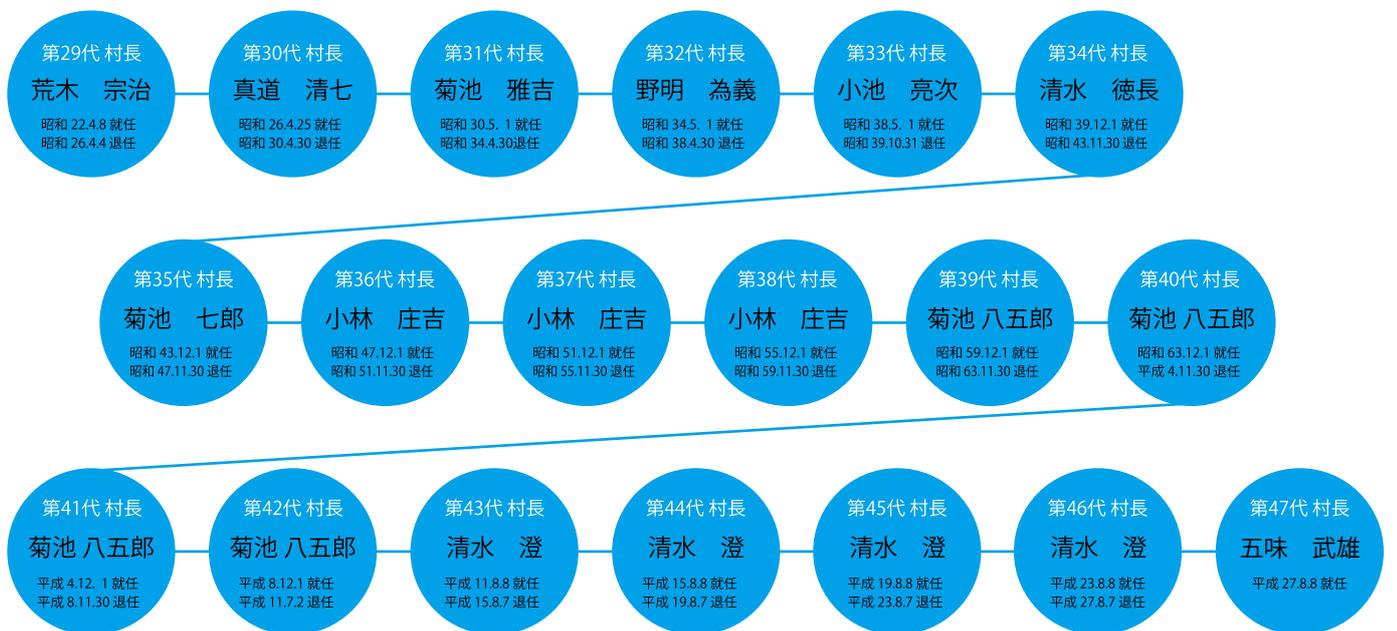
議会開催状況

(単位：人、回、日、件)

年度	議員定数	定例会				臨時会				常任委員会			
		回数	日数	付議件数	処理件数	回数	日数	付議件数	処理件数	回数	日数	付議件数	処理件数
平成18年	13	4	70	106	106	1	1	1	1	24	24	83	83
平成19年	11	4	65	90	90	1	1	8	8	24	24	67	67
平成20年	11	4	64	95	95	2	2	8	8	28	28	67	67
平成21年	11	4	55	60	60	5	5	28	28	22	22	53	53
平成22年	11	4	57	79	79	5	5	13	13	23	23	59	59
平成23年	11	4	56	60	60	4	4	28	28	39	39	51	51
平成24年	11	4	60	71	71	1	1	5	5	29	29	59	59
平成25年	11	4	52	77	77	1	1	6	6	29	29	58	58
平成26年	11	4	51	74	74	1	1	2	2	33	33	47	47

資料：議会事務局

歴代村長 (公選村長としての歴代村長)

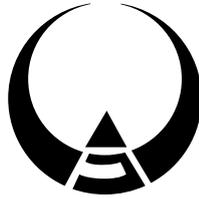


原村のあゆみ

- 紀元前20000 原村に人々の住んだ跡がみられる
- 紀元前3000 縄文農耕も安定し、大規模な集落が長期にわたって営まれ、八ヶ岳山麓独自の文化が成立し、縄文文化が最も繁栄した土器の器形が分化し、文様も立体化する人体文(顔面把手)、蛇体文もみられる。前尾根遺跡
- 紀元前1000 弥生文化が天竜川沿いに進入してくる。集落は低湿地に多い。
- 1212(正治元) このころを最後に原村開発以前に住んだ人々の跡はみられなくなる
- 1266(嘉禎2年) 原村一帯は、神野として祭場であった
- 1338(延元3年) 足利尊氏京都に室町幕府を開く
- 1356(正平11年) 原村全域神野(御狩野)に包含されていた
- 1578(天正元年) 室町幕府滅ぶ
- 1597(慶長2年) 日根野高吉 高島城の築城をなす
- 1603(慶長8年) 徳川家康が江戸幕府を開く
- 1610(慶長10年) 諏訪頼水新田開発奨励のため、原山新田百姓育成の諸役儀免除の覚え出す
- 1614(慶長19年) 払沢新田の開発が始まる(元和4年とも言う)
- 1621(元和7年) 柏木新田の開発が始まる
- 1630(寛永7年) 原山新田は瀬沢新田と山田新田が開発され、その中間に位置するので、中新田と改称される
- 1638(寛永15年) ハツ手新田開発される(元和4年説)
- 1645(正保2年) 大久保新田が開発される(寛永2年、慶安2年説等あり)
- 1783(天明3年) 「浅間山大やけ秋作皆無・・・」大飢饉
- 1807(文化4年) 「瀬(十二)の割」分水の細分化が行われる
- 1836(天保7年) 大凶作
- 1853(嘉永6年) 米艦船渡来
- 1875(明治8年) 本村は八新田村が合併して原村となる
- 1887(明治20年) 原小学校新築され、原村立原尋常小学校が開校した
- 1907(明治40年) 中新田区大火災、飛び火してハツ手区大火災となる
- 1915(大正4年) 本村に電灯が点灯する
- 1935(昭和10年) 本村弘沢区に長野県農事試験場高冷地試験地が設置される
- 1937(昭和12年) 本村の軍馬の徴発がそれの数240頭となる
- 1938(昭和13年) ハヶ岳修練農場設置
- 1941(昭和16年) 太平洋戦争がはじまる
- 1945(昭和20年) 8月15日 戦争終結
- 1947(昭和22年) 原国民学校は廃校となり、新制度の原村立小学校と原村立原中学校が開校した
- 1957(昭和32年) 町村合併について本村は近接町村との合併はせず、単独自治体としてすむことに決定する
- 1958(昭和33年) 原村有線放送の工事が完了し、村内の放送と通話が開始される
- 1965(昭和40年) 原村観光委員会・観光開発委員会などの条件ができ、観光事業に着手する
- 1973(昭和48年) 保健休養地の造成がはじまり、ペンションビルディングが開業した
- 1974(昭和49年) 村営レストハウスの木柱完成
- 1975(昭和50年) 原村村制施行100周年、ほ場整備事業がはじまる
- 1979(昭和54年) 阿久遺跡が国指定史跡となり永久保存される
- 1980(昭和55年) ハヶ岳美術館が開館する
- 1981(昭和56年) 中央自動車道諏訪ルートが完成する。諏訪南インターが設けられる
- 1988(昭和63年) 有線放送施設の老朽化に伴い、村内に同軸ケーブル網を敷設
- 1989(平成元年) ハヶ岳自然文化園が完成する
- 1991(平成3年) 村内で温泉が探知されたので掘さくし、原村ハヶ岳温泉ふれあいセンターもみの湯竣工、諏訪南インター・原村工業団地造成完了
- 1994(平成6年) 原村地域福祉センターが完成する
- 1998(平成10年) ふるさと農道が「ハヶ岳スームライン」の愛称で開通
- 2003(平成15年) 市町村合併について本村は近隣市町村との合併はせず、単独自治体としてすむことに決定する
- 2005(平成17年) 原村村政施行130周年
- 2007(平成19年) ほ場整備事業が終了する
- 2009(平成21年) 中新田区創立400年記念式典、エコライン開通式
- 2010(平成22年) 観光圏整備法に基づいてハヶ岳観光圏が認定される
- 2011(平成23年) 公共交通セロリン号・穴山原村線 実証運行開始
- 2012(平成24年) 東日本大震災、長野県北部地震
- 2013(平成25年) 原村観光連盟設立
- 2014(平成26年) 公共交通セロリン号・穴山原村線 本運行開始
- 2015(平成27年) 記録的な大雪、積雪110cm、木曾御嶽山噴火、長野県北部神城断層地震、保育所給食棟完成、上水道第5水源完成

原村のシンボル

村章



ハラをはばたく鵬の形を表現し、拡げた翼には村民を抱擁し、その円形は村内の円満団結を表わしています。

シンボルマーク



八ヶ岳をイメージしたシンボルマークです。幸せを願い村の発展を願う住民の心の拠り所として、村章と同様に緑と光あふれる未来の村づくりの象徴として住民に愛されています。

村花 レンゲツツジ



高原の暮春～初夏を代表する野性の花。

村木 ヒメバラモミ



標高の高い場所に分布。八ヶ岳周辺と南アルプス北部の一部に自生するきわめてまれな樹木。

キャラクター



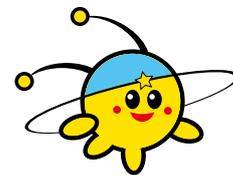
八ヶ岳キャラクター
「ヤッピー」

原村の東にそびえる八ヶ岳、主峰赤岳、原村に属する阿弥陀岳、その西側に広がる原村は、常に威風堂々とした八ヶ岳の雄大な光景を見つめながら、豊富な恵みを受けています。八ヶ岳は住民の心の拠り所であり、ヤッピーは原村の豊かな住民生活のステージ（舞台）の象徴なのです。



特産品キャラクター
「セロリン」

原村は、八ヶ岳西山麓の高原地帯に広がっているため、夏は湿度が低く、冷涼な気候を利用して高原野菜の栽培が盛んです。とりわけセロリーの生産高は日本一。セロリンはそんな風土から生まれました。「日本一元気な村-原村」を引っばっていく主役なのです。



星のキャラクター
「ピカタン」

「星の降る里 in 原村」と題して開催される「星まつり」は、全国から天文ファンが集まるイベントとして有名になりました。原村から見える星は、誰もが絶賛する美しさ、同時に環境のすばらしさの象徴でもあります。ピカタンは、原村の自然環境を愛し、守って行こうという住民の気持ちの代表者なのです。



日本一の生産高を誇るセロリ一畑

原村2015年村勢要覧

美しい村 The Beautiful Village of HARAMURA

企画・発行／原村 〒391-0192 長野県諏訪郡原村弘沢 6549 番地 1

TEL 0266-79-2111 FAX 0266-79-5504

URL <http://www.vill.hara.nagano.jp/>

MAIL kikaku@vill.hara.nagano.jp

発行日／平成27年3月 企画・制作／(株)地域設計